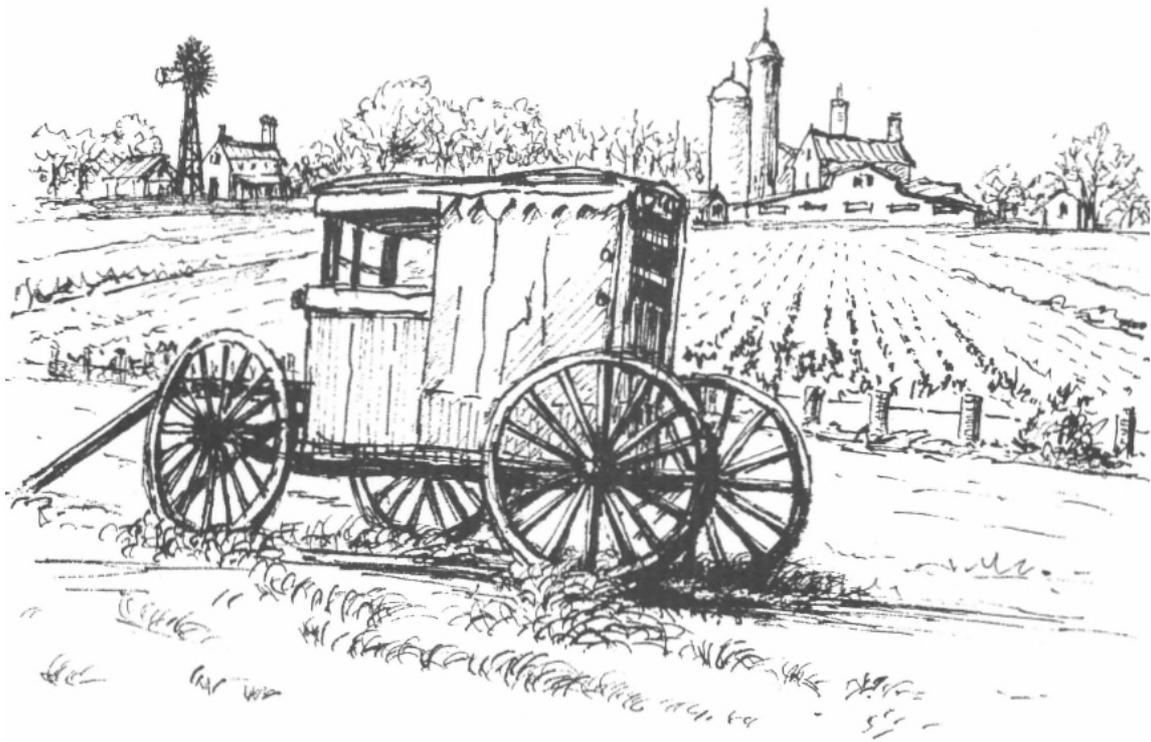


地理紀要

第 29 号



アーミッシュカントリー
(アメリカ合衆国ペンシルヴェニア州)

2012

神奈川県高等学校教科研究会社会科地理分科会

目 次

注) PDF 化にあたって目次のみテキスト化してあります。本文は画像ファイルです。

OB エッセイ

地理部会での思い出 朝野 哲夫 (元県立平塚江南高等学校校長)・2

特集「2011年度 海外研修報告」

ロシア沿海州研修
 ーシベリア鉄道とアムールの旅ー 海外研修委員会編・・・3

私の教材紹介

地理教育にライフサイクル思考を
 ー「かばんの中でも温暖化?!」の活用ー 根元 一幸 (県立座間高等学校)・・・30

夏季野外調査報告

タイトル未定 伊賀 康博 (県立小田原城北工業高等学校定時制)・・・34

秋季野外調査報告

東京の土地利用と水と新たな可能性について
 ー秋季野外調査の覚書ー 井上 明日香 (県立元石川高等学校)・・・39

委員会報告

横浜市金沢区長浜・富岡および野島巡検 井上 達也 (県立釜利谷高等学校)・・・41

中郡が日本の落花生栽培の発祥地
 ー「相州落花生」(大磯町・二宮町・秦野市)ー 能勢 博之 (県立鶴嶺高等学校)・・・43

「新地理演習帳」と「トライ地理20」の特色と活
 用のヒント 山本 敦 (県立茅ヶ崎西浜高等学校)・・・45

県下一斉テストの作問方針と2011年度の問題に
 ついて 磯崎 厚 (県立厚木高等学校)・・・47

表紙 佐野 久子(元県立横浜緑ヶ丘高等学校)

OBエッセイ

地理部会での思い出

朝野哲夫(元県立平塚江南高等学校校長)

1975年に教員になりましたが、いつ部会に入会したかは定かではありません。しかし、シンガポール・マレーシアの海外巡検には参加していますので、多分最初から図々しく入会したのかと思います。所属はテスト・出版委員会です。県下一斉テストの作間が一番の思い出であるはずなのに、どんなコンセプトで臨んでいたのか全く思い出せません。ただ、湘南高校で作業をしていて夜になると、落合寿先生が腕まくりをして定時制の夕食弁当の残りを「ホレ食え」と差し入れしてくださったのを懐かしく思い出します。この弁当が校門脇の食堂よりもどういいうわけか美味しかった。また、地理演習帳を初めて編集したのもこの時であったと思います。できるだけ多くの学校で採用してもらえるように、執筆者を各学校に割り振ってお願いしたのですが、編集の拙さから第1版の出来栄は散々でした。その他「空から神奈川」の編集の末席に参画したりしました。それらの過程においての故梅原正巳先生のご教示は大変参考になりました。

さて、地理分科会の醍醐味は何と言っても海外巡検でした。多分今でも語り草になっていると思いますが27(?)泊のラテンアメリカ一周巡検は、歳月を経るにつれて、よくぞ教育委員会が許可してくれたものだと感謝していますが、先生方も熱心に巡検に励み立派な報告書を作成しました。地理教師として実際に現地で体験してきた事柄を授業に生かせるわけで大変な自信になりました。今は危険で入国できないアフガニスタンの砂漠なども思い出は尽きません。運動部の顧問を務めながら部会の活動もできたのは、ご一緒した先生方の楽しい中にも含蓄に富む会話に参加したいという強い気持ちがあったからでした。

現在は教育センターにおいて教育指導専門員をしており、社会科(地歴・公民)の新採用教員研修にも年7回ほど立ち会っていますが、新人たちには、自校の先輩だけでなく部会に入り各学校の先生方と交流し、啓発を受け実力をつけなさいと、強く薦めています。

特集「2011年度 海外研修報告」

ロシア沿海州研修 —シベリア鉄道とアムールの旅—

海外研修委員会編

「異国の丘」

団長 県立二宮高等学校 比佐 隆三
2011年7月24日(日)から5泊6日の日程で、BRICsの一角を占めるロシア連邦共和国の沿海州地方を訪れ、有意義な海外研修を実施できたことは誠に感謝にたえません。今回の旅行団の団長を拝命してから帰国までに感じたこと、考えたこと等を述べてさせていただきます。

3年前の2008年に実施した中国巡検と同様に18名の小所帯ながら、地理や公民、英語、国語、生物などの様々な教科の先生方が参加して幅広い視野からロシアという国を考察することが出来て非常に参考になりました。さらに、20代の現役の大学生達も加わり、団員の層が拡大されて大変バラエティーに富んだ集団となりました。幸いにも、全員が相互理解を深めて、帰国時は十年來の知己というような親しい人間関係を築くことが出来たことは、実に素晴らしいことでした。

さて、今回の巡検で個人的に一番訪問したかった場所は、第二次世界大戦終了直後にソ連軍(当時)に捕虜として「シベリア抑留」された元日本兵が眠る日本人墓地と慰霊のシンボルである平和慰霊公苑でした(両方ともハバロフスクに存在)。親類の叔父からシベリアの収容所から奇跡的に復員した体験談を幼少期に聞かされていたので、大いに関心があったのです。ちなみに、故人となった演歌歌手の三波春夫氏もやはりハバロフスクの収容所に2年間抑留されて

いたそうです。

周知のように、当時のソ連首相で独裁者だったスターリンの命令で、日本の敗戦後にポツダム宣言に違反して約60万人の日本の男性たちが収容所で強制労働に従事させられ、飢えと寒さによって6万人が死亡しました。

望郷の念を抱きつつ永眠している彼らの墓地を自分の目で確かめることが出来て、本当に感慨無量でした。戦後に流行した歌謡曲の「異国の丘」の歌詞が頭の中を駆け巡り、胸が締め付けられる思いでした。

私が生まれた1952年はそろそろソ連から帰国が開始されていましたが、最後の抑留者が故国の土を踏んだのは1957(昭和32)年で、敗戦から12年も過ぎていたということです…。

本当に戦争というものは、人間に残酷な仕打ちを強いるものだ改めて痛感した次第です。2011年8月15日の「敗戦記念日」には、戦争と平和の重さを改めて噛み締め、両国に再び不幸な時代が訪れないように、私も生徒に平和教育をしっかりと行わねばと思いました。

最後に今回のロシア巡検を成功に導いた海外研修委員会の米山先生・中村先生・小川先生の3名の方々に改めて御礼を申し上げます。充実した研修を実現できたのも、3名の皆様の努力の賜物であると感謝しています。次回の巡検は2014年に実施の予定ですが、多くの方々の参加を期待しています。

ダ・スヴィダーニャ!



写真1・2 平和慰霊公苑のメモリアル・センター(左)と「シベリア戦没者慰霊碑」(右)

写真3 約300名が眠る日本人墓地

ロシアの道路から

上智大学学部生 小山 詩織

ウラジオストク、ハバロフスク両方の町を歩いてみて、強く感じたことがある。それは、非常に歩きにくいということだ。道路が入り組んでいるからではない。むしろ道幅は広々としており、ロシアの中では決して都会と呼べる場所ではないからかもしれないが、細かな路地も見当たらなかった。私が述べたいのは、道の状態そのものである。道は段差に溢れており、歩道橋の階段も急なものが多く、段の高さが均一ではないこともあった。ことウラジオストクにおいては、2012年9月に予定されているAPECに向けインフラ整備の急速な準備が進められている。とはいえ、その工事で出されたコンクリートの破片が平然と、かつ大量に転がっていたり、車両や植物を灰色に変えてしまうほどの粉塵が舞っていたりする様は私の目に異様に映った。粉塵は致し方無いとしても、コンクリートの破片は歩行者や車両のためにも回収しておくべきではないだろうか。

このような道路状況を目にして、私はロシアの高齢者が心配になった。こんな歩きにくい道では毎日さぞ苦勞するだろう、そして、我が国のバリアフリーに慣れた日本の高齢者がロシアに行ったならば受ける衝撃は甚だしいだろうと（少し別の問題なのかもしれないが、私はもうひとつ、宿泊したホテルにおいてもロシアの非バリアフリーさに骨を折った。玄関からフロントに行くために階段を上らなければならないホテルは初めてであったし、それから見たことがない）。しかし、現地で生きる彼らがそれらの障壁に困っている場面は、短い滞在ながら見ることがなかった。若い頃からこのような町で生きているから最早慣れたもの、今更辟易するまでもないのだろうかと思っていたが、そうではない。高齢者をほとんど見かけないのである。確かに、外を歩き回る高齢者がいないのならば、彼らのためのケアを用意する必要もない。思い返してみれば、日本の高齢者向けバリアフリーの普及は、医療技術の発展による寿命の延長に端を発するものではなかつただろうか。

どうやらロシアには高齢者がいないらしい。2008年度の調べによると、全人口約1億4,000万人中65歳以上の人口は約2,000万人である。およ

そ13パーセントだ。決して少なくはない割合なのだが、日本で1億2,700万人中約23パーセントを占める3,000万人の高齢者と比べると圧倒的に少ない。一方、ロシアにおける14歳以下の割合は14パーセントで、この数値は日本のそれである13パーセントと近似している。少子化問題を抱えているという点で日露は類似しているようだが、高齢者の点では別らしい。

両者を隔てるものは、やはり先述した医療技術の発達が挙げられるだろう。2006年調べのロシアの死亡率では、結核が男性で35.6人（日本は2008年に2.4人）、女性で6.5人（同じく日本は1.2人）という結果が出ている。10万人あたりから算出したものだが、現代の医療水準からすればほぼ治るはずの病で、今尚これほどの人数が死亡しているというのは、ロシアの医療が未発達であることの証拠たり得よう。

また、興味深い数値として、男女の人口の差異が非常に大きい。ロシアの高齢者の内、3分の2が女性なのである。全人口の男女比は、男性6,500万人、女性7,600万人と、女性がわずかに上回っているに過ぎないのだが、65歳以上となると男性600万人、女性1,300万人である。これは生活習慣や社会的背景があると考えられるが、残念ながら今回の視察ではその答えになるようなものを見ることはできなかった。一体なぜ男女間で寿命の長さが異なるのか。なぜ男性が早死にする傾向にあるのか。次の機会があるならば、これを探ってみたいと思う。

参考文献

総務省統計局、世界の統計 第2章 人口 2-7

男女年齢5歳階級別人口2011.10.31 参照

<http://www.stat.go.jp/data/sekai/zuhyou/0207.xls>

同、世界の統計 第14章 国民生活・社会保障
14-1 死因別死亡率2011.10.31 参照

<http://www.stat.go.jp/data/sekai/zuhyou/1401.xls>

日本との関係を深めるナホトカ

市立戸塚高等学校 宇田 博

ナホトカの街は、1952年から開発が始められた。ナホトカとは「拾ったもの」「見つけたもの」と言う意味とのことだ。以前は中国人が小舟で昆布などの漁を細々として行っていた寒村であった。湾が奥深くまで入り込み自然の良港となっている。造船業を中心に街が広がり、現在

では人口 20万を数え石炭・石油・木材の輸出港として発達している。街の中心部は緑も多くよく整備されている。走っている車のほとんどは日本から輸入した中古車で占められている。中には「〇〇運輸」と書かれたままのトラックが走っている。彼らにとってデザインの一部ぐらいと捉えられているのかも……。日本で運送業者がかなり使用したトラックをさらにここでは現役として新たに活躍している。ロシア人にとって日本車の人気は高く、また広い街でバスは走っているが、生活の必需品となっている。彼らの所得からすると中古車とはいえ安い買い物ではない。日本で5年ほど走った中古車が、ここでは新車と聞くと驚かされる。街を歩く人の多くが、肌を多く出し長い足でさっそうと歩いている。厳しく長い冬を乗り越えて、短い夏の間太陽の光をできるだけ浴びたいということなのだろう。特に女性が大胆に胸を開けている姿には、なれるまでやや落ち着かない。それにしても若い人を除けば男女とも太めの体型の人が多し。前日のウラジオストクからナホトカまでのバスの中で出された弁当の量の多さ、この弁当を完食できた人は誰もいないのではないかと、我々の感覚の2倍の量はある。太めの体型に納得である。食べることは人生の楽しみの一つである。大いに楽しんでいるようだ。太めの体型など気にも止めないと言っているようだ。

ロシア人が我々日本人に示す態度はとても好意的である。よく「こんにちは」と声をかけられる。これはナホトカ以外でも同じだ。港がよく見える高台に舞鶴市との姉妹都市を記念する碑がある。3月11日、日本で起こった大震災のニュースを聞き、多くのロシア人がここに集まり、献花をし、ローソクをともし日本そして日本人に祈ったとのことだ。ロシア人にとって日本人は身近であった。戦後、多くの日本人がここの収容施設に拘束されていた。抑留者の中には、日本への望郷の気持ちを癒すために、片言のロシア語で彼らに篤く語りかけたのだろう。その彼らの中の多くは日本の地を再び踏むことなく、この地で生涯を閉じた。このことをロシア人は子供に伝えている。「彼らはもの静かで、礼儀正しい」これが日本人の印象のようだ。まして、3月11日のあれだけの震災後も、国内

で暴動・略奪が全く発生しなかった。これもまた彼らの日本人に対しての評価を高めているようだ。姉妹都市を記念する碑には「日本海が永久に平和と友情の海であるように」と刻まれている。

ナホトカから車で約1時間45分ほどで、コイズミノの石油積み出し港に着く。ここは2009年に開港された。遠くシベリアから輸送されてきた石油を日本をはじめ、中国・韓国・タイ・シンガポールへ輸出している。その中で日本へは全体の30%を占め第一位である。現在は、年間1,500トンの輸出であるが、近い将来には5,000トン/年になるとのこと、日本との関係がますます強まる。

成田からウラジオストクまでは飛行機で約2時間程度である。沖縄に行くのときほどかわらない。しかし私にとって心理的な距離感をはるかに大きかった。戦後の冷戦時代に、すりこまれた影響なのだろう。北方四島問題などもある。しかし沖縄ほどの距離の所に、体制の激変を乗り越え、さほど豊かでないまでも精一杯人生を楽しみ、日本人に好意をいだく人々がいる。今回の旅は、この心理的な距離感を確実に縮めてくれた。

食を楽しむ

東京学芸大学学部生 小座間 聡子

ロシアの食を楽しむ。これが今回の旅の一番の目的だった。世界各国の料理が日常生活で楽しめるようになっていく中で、ロシア料理というのは正直あまり馴染みのないものだった。ピロシキ、ポルシチ、ピーフストログノフ…。名前を耳にすることはあっても、口にした経験はほとんどなく、私にとってロシア料理とは未知の領域にあるものだった。先のような目標を掲げて旅にのぞんだものの、出発前は、果たして口に合うのだろうか、と一抹の不安を抱いていた。

ロシアの食との最初の出会いは、行きの飛行機の中だった。機内食である。機内食ということで、さほど期待はしていなかったものの、さすがロシアの航空会社、スモークサーモンがとてもおいしかったのだ。これは今後の料理にも期待ができる、と思い胸を踊らせていた。

1日目の朝、ホテルのレストランで出会った

朝食は衝撃的であった。パンともケーキともとれるような何かが、白いソースのようなものとともにテーブルに届けられた。



まったくもって正体が分からない。どうやって食べればいいものなのかもわからない。同席していた現地のガイド、Origaさんにこの料理は何なのかを聞いてみたところ、これは牛乳豆腐、とのことであった。ロシアでは一般的に食卓に並んでいるものだそうだ。正体が分かったところで、口にしてみると、ほのかな酸味以外あまり味はしなかった。日本ではあまり味わうことのない味だった。

その後、レストランやホテルで食事の回数を重ねるにつれ、これまで耳にしたことがあるようなロシア料理にも出会うことができた。そのどれもが食べやすく、美味しいものばかりだった。最初にした期待は間違いではなかったと感じていた。

しかし、食事の回数を重ねていくうちに、メインは、ピーフをストロガノフにするか、チキンカツレツにするかのどちらかで、つけ合わせはマッシュポテト、というパターンが見えてきてしまった。なので、日を追うごとに「ロシア料理はパターンが少ない」という認識まで抱くようになってきた。

しかし、5日目の昼食時に訪れた場所で、その認識は変化することとなった。ガイドのVladimirさんに連れられ訪れたのは、労働者の方々が食事に利用する食堂であった。自分で好きなものを選んでいけるセルフ方式のお店であったため、店内には数多くの料理が並んでいた。それまで目にする事のなかった肉まん(というよりはミートパイに近かったが)や、ハンバーグのような肉料理、そばの実といったものにも出会うことができた。

この旅始まって以来の食の種類豊富さを目の前に、先程までロシア料理に抱いていたイメージが一気に変化してしまった。そのこともあって、この食堂での昼食は、非常に思い出深いものとなった。



今後、もう1度ロシアを訪れる機会があるのなら、今回の食堂のようなロシアの人々が日常的に食事をしているような場所で、またロシアの食を楽しみたいものである。

ロシアと日本文学

公文国際学園高等部 杉山 志津恵

旅行好きの私が夏休みの旅行先に悩んでいた時、隣のN先生からの「ハバロフスクに行ったらいいじゃないですか」という一言で今回の旅行に参加させてもらうことになった。

約二時間のフライトで、APECの準備でごったがえすウラジオストク、シベリア鉄道で一晩かけてヨーロッパを思わせる街並みのハバロフスクを訪れたことは、大変貴重な体験であった。

近くにありながら、興味を持つこともなく、実際の情報も少なかったことを感じた。日本製品を好み、ロシアの若い人たちが日本に対する親しみを感じている様子の中で、その逆が成立していないことを実感した。それは文学についても同様だ。

国語科教員であるからか、印象に残ったのは帰りの飛行機で聞いたハバロフスク副領事のお話だった。

副領事のお話によると、ロシアの人は文学に対する素養があるとのこと。本を読んでいない人は軽蔑されてしまうのだそうだ。「ロシア文学を理解しようとする」と新しいロシアが見えてきますよ」とのことだった。

そのような中、日本の作家では村上春樹・よ

しもとばななが広く読まれているようだ。実際ハバロフスクの街を散策している際、立ち寄った書店では「1Q84」の1・2巻が平積みになっていた(写真)(タイトルが数字とアルファベットなので見つけることができた)。



写真 本屋に平積みされる村上作品

逆に日本において現代のロシア文学が親しまれているかという、私は国語の教員として10年以上勤務しているが、学校内でも、学校外の国語科教員の集まりでも、ロシア文学が話題になることはまず、ない(もちろん読んでいらっしゃる方はたくさんいると思う)。

先ほどの二人の日本作家の人気はいうまでもなく、いまやほとんどの高校国語教科書に村上春樹氏の作品は載っているし、ばななさんの作品も多く載せられている。生徒から二人の作品の感想を聞くことも多い。実際私自身も春樹氏の作品はかなり読んでいるし、ばななさんの作品にいたっては全て読んでいる。その二人がロシアで広く読まれているというのだ。

このような文学に対する食欲さはどこから来るのだろうか。

一つは厳しい冬にあるのだと思う。雪に閉ざされた世界だからこそ、ロシアの人々はひたすら文学に没頭し、精神世界を耕してきたのだと想像する。厳しい自然条件によって自らの行動に制限がかけられ、文学の世界にエネルギーが向けられたのだ。

私は仕事柄たくさんの書物を読まなければならないが、社会のスピード化が進み、多忙な中、残念ながら思うように読書が進まず歯がゆい思いをすることが多い。電子書籍が普及し始め、タブレット型のパソコン一つで、多くの作品をどこでも読むことができるのは、非常に便利であり、国語科教員としても、多くの本を持ち歩

かずに済むということは大変ありがたい。しかしながら、「落ち着いて文学と向き合う」という行為からはどんどん遠ざかっているように思う。

ドストエフスキーやトルストイがそうであるように、ロシア文学は非常に長いことが特徴である。電子書籍にしまえば、これらも手軽に読めるようになるだろう。ロシアの人たちが愛してやまない文学を、どのような媒体で取り扱っていくのか、非常に興味がある。

高校国語教育の世界でロシアというと、シベリア抑留の体験を綴られた石原吉郎氏が注目されていることを付け加えておきたい。

国語教員である私を快く迎えてくださった皆さんに感謝の意を表し、報告ともいえないこの文章を締めくくらせていただきたい。

シベリア鉄道9288とツポレフ

サレジオ学院高等学校 梶原 茂喜

シベリア鉄道は、極東の征服と開発のために計画された鉄道で、1904年にモスクワ～ウラジオストク間9,297kmを結ぶ世界最長の大陸横断鉄道として開通した。ただし、本来のシベリア鉄道は、チェラピンスク～ウラジオストク間の7,416kmである。ただウラジオストク駅構内に9,288kmのキロポストが設置されていることを考慮すると、モスクワ～ウラジオストク間が一般的なシベリア鉄道の全線としてみなしてよさそうである(2つの長さの違いは、2001年以前の実測距離で、現在と経由地が異なる)。全線を結ぶ唯一の旅客列車「ロシア号」は7日間で結ぶ。

今回の極東地域巡検で、その一部ではあるが、ウラジオストク～ハバロフスク(約780km)を10時間で結ぶ「オケアン号」(オケアンとは大洋の意味)に乗車する機会を得た。これからも乗車する機会が少ないだろうと考えられるシベリア鉄道乗車記と、搭乗したロシア製航空機について、報告したいと思う。

オケアン号は、列車番号に5と6が割りふられており、ウラジオストク発は5列車である。電気機関車(かなり巨大)1両で、客車17両を牽引し、ウラジオストク～ハバロフスク間を1日1往復する。2011年7月のダイヤでは、ウラジオストク駅の発車は21時30分であるが、日本より

2時間進んだ時間帯を使用しているため、その時間ようやく日が暮れてくる。夕刻に上野駅を発車する寝台特急「北斗星」といった感じか。

われわれが利用した2等寝台は、4人用のコンパートメントで、上下2段の寝台が並ぶ。1等寝台は2人用コンパートメントになっている。車両の通路との間にドアが設けられているが、寝台には、日本のものと違いカーテンもなく、知らない人同士や男女が一緒になった場合、気を遣いそうである。

広軌軌道のため、寝台の縦は長い、幅が日本のもの(B寝台で70cm)より狭く、窮屈さを感じる。また、寝台から落ちないようにするための手すりが固定されないのと、貧弱なため、不安である。また、下段には、そのような道具は全くない。上段へ上がるはしご風のものも使いづらい。そのため、よく眠れた感はほとんどなく、早朝から通路で車窓を眺め、広大なロシアを実感することとなる。

通路は狭く、2人ですれ違うには注意を要するほどである。朝は、希望者にお茶のサービスがあり、車掌(2両おきに乗車)がサーブしてくれる。トイレは各車両の前後に1つずつ設置されているが、洗面所も兼ねているため、かなり使い勝手が悪い。また、電源車を繋げていないせいか、エアコンは、駅に停車中は稼働しない。

定刻の8時30分にハバロフスク駅到着。北緯49度近くにあるこの北の街は、朝から暑かった。

往きの、成田～ウラジオストク間のフライトでは、ロシア製の飛行機に搭乗することができた。ツポレフ社製のTu-204-300である。中型機で、アイドリングに時間がかかり、高度の上げ下げはかなりゆっくりに感じた。機内サービス部分はかなり適当で、シートポケットにもものは揃っていないし、座席のリクライニングの固定が緩く、次第に傾く席も多くあった。また、肘掛けのカバーがない席があっても、特に問題なく飛行している。着陸の際に座席の直しなどをCAに注意されることもなく、非常に適当であった。日系航空会社はその点厳しいし、座席の不具合は、安全姿勢が保てないということで、座席移動の対象であろう。そんなところに、大陸のおおらかさと、旧社会主義体制の一部を垣間見ることができたかもしれない。

ハプニングもあった。成田空港でウラジオス

トク航空のコンピュータシステムがダウンした。そのため人の手によるチェックインにより、出発時刻が遅れたが、われわれに渡された搭乗券も、クレームタグもすべて手書きのもので、時間はかかるが、目的地まで人と預け荷物を運ぶことができるんだと実感することができた。



写真 モスクワより9,288kmの石造キロポスト

シベリアで出会った温かい人々

鶴見大学附属高等学校 栗林 和子

今回の研修旅行では、今まで知る機会の少なかったロシア・極東地域の様々な魅力を知ることができた。壮大なスケールの自然や街並み、人々の暮らしぶりなど、実際に目で見て肌に触れて改めて発見したことがいくつもあったが、私にとって最も大きな収穫はロシアの人々への印象の変化である。正直なところ、研修以前はロシアの人々に対して「怖そう」とか「話しかけづらそう」といったイメージを抱いていた。また北方領土問題であるとか、歴史的な関係などからロシアの人々は日本人のことをあまり好きではないだろうと恥ずかしながら勝手に思っていた。しかし今回の研修を通じて、実際に極東地域に暮らす人々に触れ、そのイメージが大きく変わった。また、お隣の国韓国のドラマやアイドルグループが日本に紹介され、また日本のアイドルが韓国で活躍しお互いの文化が交流し合っている状況を知ることがあっても、韓国と同じように飛行機で2時間で行けるほど近い隣人であるロシア極東地域の人々の暮らしぶりや日本への興味関心などを知る機会がそれまで非常に少なかったことを実感した。

日本に対して、極東地方の人々が関心を持つ

ていてくれているのだなと感じたのは、研修最終日前日の自由行動でハバロフスクの街歩きをしているときのできごとでのことだった。杉山先生、林先生と街歩きをしているときに、軍の制服を着た若者が日本語で話しかけてきた。彼は19歳で、軍隊の学校に通っている軍人だが、日本語に興味があつて勉強しているとのこと。勉強している日本語を実際に試せることが嬉しかったようで、東京に行ってみたいなどと色々なことを話してくれた。残念だったのはなぜ日本語を学習したいと思ったのかを聞いておきたかったことと、名前が長くて覚えられなかったことである。また、この日もう一つの出会いがあつた。百貨店で出会った女の子・ナターシャである。百貨店の中で先生たちと会話をしていると、すれ違った女の子が非常にびっくりした顔で立ち止まった。なんだろう？と思ひながらそのまま店の中を見ていたら、その女の子が「日本語、すごい！」と話しかけてきたのだ。一見日本人のように見える女の子・ナターシャは、先ほどの青年と同じくやはり学校で日本語を勉強しているといい、日本の漫画『ナルト』が大好きだそう。ハバロフスクの本屋でも、『ドラえもん』や『ナルト』は翻訳されて売られており、日本の漫画・アニメはここでも人気があるのか、と感じたが、ナターシャも相当のファンのもようであつた。その後一度分かれたナターシャであるが、数時間あとに今度は別の大型ショッピングセンターでまたもすれ違ったので驚いた。その時には店の中を色々案内してくれ、おすすめのおみやげなども教えてくれた。最後にはバスが分からず困っているとバス停まで案内してくれ、とても親切にしてくれた。ロシアの若者たちと触れ合えた貴重な体験だった。

今回の研修旅行を通して、私のロシアの人々に対するイメージは変わった。もちろん触れあえたのは一部の人たちだけだったが、研修中に会った人たちは「怖そう、日本のことが嫌いそう」といった思い込みとは違い、少しはにかみ屋で親切な人たちだったのだ。ナホトカを案内してくれたガイドさんも、極東地域ではシベリア抑留時に日本人が建物を建設したりする仕事に従事させられたが、その時に現地の人々との交流があつたり日本人への親しみが持たれたと

いう、私にとっては意外な説明をしてくれた。また、ロシアでは日本文化のブームも起こっており、ハバロフスクでは日本文化祭や日本映画祭、日本語スピーチコンテストも行われているという(アンナ・バルスコワ「ロシア人大学生の日本語学習の動機付けについて」2006参照)。また、ウラジオストクでも日本映画上映会や日露交流コンサートが開催されている(在ウラジオストク日本総領事館HP参照)。ハバロフスクの本屋でも日本の漫画のほか、村上春樹の翻訳版が販売されていた。飛行機でたった2時間しか離れていない、ウラジオストクやハバロフスクで日本の文化が愛され大切にされている一方、日本ではこの極東地域に関する情報があまり一般的には知られていないのはもったいないことだ。今回の研修を通じてロシア極東地域と日本の交流の在り方に興味を持ったのと同時に、この極東地域の魅力を少しでも多く伝えていけたらと思っている。

はじめまして日本海、こんにちは大学院

東京大学学部生 小風 尚樹

2011年7月末。寒空の下、寒風吹き荒れる極寒の地シベリアに赴かんとする私のスーツケースには、完全防寒グッズが揃い、おまけに行きの成田空港で衝動買いをしたTシャツ3枚が鎮座していた。それら防寒グッズはシベリアの日の目を見ることもなく、微動だにしないまま日本に帰国することも知らずに……。かたや私は、ハバロフスク側から生まれて初めて日本海の水に触れるという、日本人として非常に稀有な経験をしたというのに。さて、いざ、シベリア。

全行程の感想を記したい気持ちはやまやまであるが、紙面の都合上私の将来に関する決意に関わる出来事を記すに留めたい。

時は7月29日、我々はハバロフスクから日本へ帰国する飛行機に乗っていた。ハバロフスク総領事館副領事である竹内さんの横の席に図々しくも移動した私がそこにいた。そう、リクルート活動である。余談であるが、私と竹内さんの実家は車で5分もあれば着いてしまうような距離にあつた。なんたる偶然。あの松屋の後ろだったのか……。

閑話休題。

「男ならね、人にあれこれ指示して満足するん

じゃなくて、自分で行動しろ、と思うんですよ。だから私は経済評論家みたいに方向性を示すだけの人は情けないと思いますよ。」インツールストホテルでの穏やかな表情とは一変して、熱のこもった語調で話をされる竹内さん。

確かに、自分たちの研究を外の世界と共有しようと思わずに、殻に閉じこもっている学者(特に歴史学者だろうか)に対する「象牙の塔」批判は古くからあるが、竹内さんの批判はそうしたイメージに基づいているのであろう。話の腰を折りたくなかった私は、そのまま話を聞き続ける。

外務省の立場で働く竹内さんは、他の省庁の意見や要求と、相手国との関係との折り合いを考慮しながら国益のために交渉の調整をすることが仕事だと仰っていたが、その目には自分の仕事の性格である「方向性を示すだけでなく、現場で動くこと」に対する確かな自信が宿っていた。

日本に帰国してからの私は、「自分で動くこと」に対する異様なまでの意欲に溢れていた。就職活動をせずに海外ボランティアに行こうと思ったこともあった。

しかし、同時に思うことがあった。「今の自分に何ができる？」東日本大震災に際して、関東のテニスサークルに呼びかけて多くの賛同者を募り、義援金を集めた時に感じた思いに似ていた。「将来にできることを蓄えておくことも、今できることを模索することと同じくらい大切なことだ」と。

夏採用の就職活動の結果も芳しくなかった私に残された道は、せめて現状から前に進むことだろうと思い、ボランティアに行くことは断念し、大学院を目指すことを決意した。

西洋史学専修課程の私が目指す大学院は、奇しくも竹内さんが批判する歴史学のコースである。しかし、私は今卒業論文を執筆しているが非常に楽しい。自分が好きなことをやる理由などそれで十分なのかもしれない、と思う。

その点、今回の研修で私たち学生のお守りをしてくださった先生方の地理への熱意はすさまじいものがあった。「川が蛇行しているとバスは止まるらしい」、ということを私は学んだ。

しかし先生方は決して自分の建てた象牙の塔には閉じこもらない。未来に希望を託すかのように、子供に向き合って教育に携わっている。

私もそんな先生方に育てられてきたのだな、と過去を振り返った。

将来、何の仕事をしているのかなど現時点での私にはわからない。ただ、目の前にある様々な選択肢の中から、未来を見据えた選択をできる冷静さと、それに真摯に取り組むがむしやらは常に持つておきたいと思う。今、大学院を目指して勉強をしている私の目には、確かな自信が宿っているはずだ。

自分の選択に誇りを持って生きる先生方の目を見て、色々な話をすることができたこのシベリア研修は私の人生において貴重な経験になったことは間違いないと思う。私はそんな先生方に何か影響を与えられたかどうかはわからないが、シベリアの寒さに負けない梶原先生のギャグにあたたかいツッコミを差し伸べることができたことは間違いないと思う。(完)

近くて遠いロシア沿海地方

— 知らなかった日本との関係 —

國學院大學久我山中学高等学校 林 靖子
はじめに

本報告では、研修の前半で訪れたウラジオストクとナホトカ周辺(図1)の日本との関わりを、研修の感想とともに簡単に報告する。

1. ヴォストーチヌイ港と日本

ヴォストーチヌイ港は、ナホトカ湾の南東部に位置し1970年代日本の借款供与の協力を得てつくられた、最大水深22m、15万t級の船が入港できる不凍港である。石炭、コンテナ、原油の取り扱いに特化している。

石炭の大半はクズバス産(クズネツク炭田)で、中国の他、日本へも輸出されている。コンテナ取扱量はリーマンショック後大きく減少したが、2008年まではウラジオストク港の約1.5倍の量であった。現在、神戸、名古屋、横浜、門司への定期便が航行しているが、韓国(プサン)や中国(上海など)への航行が圧倒的に多い。2009年12月に開港したコズミノ石油輸出港は、最大の輸出先が日本で、総輸出量の約30%を占める。その他韓国、タイ、シンガポールなどへ輸出されている。現地では、石油や石炭の積み出し港、コンテナ集積地を望み、車窓から頻繁に貨物列車を観察することができた。



- ①ホテル ガリゾント ②コジミノ石油輸出港
- ③ルースキー島大橋 ④ルースキー大橋を眺めた高台
- ⑤ザラトイログ(金角)湾横断橋 ⑥アムール湾大橋

図1 ウラジオストク周辺地図(作成: 林)

2. APECに向けたウラジオストクの大開発と日本企業

2012年9月にルースキー島で開催されるAPECに向けて、現在ウラジオストクでは、2兆円近くを投じ都市開発が行われている。会場となる極東大学周辺だけでなく、3つの大橋、空港や道路、ホテルや劇場の整備など、都市の発展と市民生活に直接関わる多くの事業が進行している。滞在中、現地の新聞でもその様子が報道されていた(写真1)。



写真1 北岸に建設中のザラトイログ(金角)湾横断橋の眺め ホテルで得た地元紙・極東ビジネス新聞「ゴールデンホーン」より。

ルースキー島大橋のボーリング用機材の納入は伊藤忠が、ルースキー島と市内を結ぶ海底ケーブルは丸紅が受注、ザラトイログ(金角)湾横断橋のコンクリートは北海道の企業が参入し、ガスパイプラインは新日鉄が関わるなど、

日本企業も様々な分野でウラジオストクの開発を支えている。

おわりに

ナホトカ近郊では、資源大国ロシアの一片を垣間見た。APECに向けて大きく変わろうとしているウラジオストクは、万博開催前に個人的に訪れた上海を彷彿させ、街のエネルギーを強く感じた(今回は取り上げなかったが、ハバロフスクの緑地化やレクリエーション施設の増設を進める都市計画も興味深かった)。

ただ、沿海地方の人口はロシア全体の約1.4%(2011年3月)で市場としては小さく、また港を拡張しても鉄道輸送が限界にきているという。環日本海航路はプサンがハブとなりその存在感が大きいが、今後も沿海地方の動向と日本との関係に注目したい。貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。

参考資料

- 社団法人ロシアNIS貿易会, ロシアNIS調査月報 2011年5、6、7、8月号,
- JSC "Vostochny Port" website http://www.vpnet.ru/eng/index_eng.htm
- Official website for APEC Russia 2012 in Vladivostok <http://vladivostok2012.com/>(2011年8月7日閲覧)

日本車……第二の人生

サレジオ学院高等学校 小川 剛史

はじめに

ロシアでは、ことに極東地域では日本車が多いということは、地理の教科書などでよく紹介されている。例えば、帝国書院『新詳地理B』では「ロシアでは日本車はたいへん人気があり、とくに極東ロシアで走る自動車の9割近くは、日本製である」との表記とともに、日本語の入ったトラックの写真が掲載されている。実際、今回訪れたナホトカ〜ウラジオストク〜ハバロフスクでは、9割近くどころか、99.5%が日本車といっても過言ではなかった。

1. トラック

ロシアを訪れる前、授業のネタとして使える「日本語トラックの写真が撮りたい」「撮れると良いな」と期待に胸を膨らませていた。いざロシアに行くと、そんな思いはよそに、そのよう

なトラックは数多く走っていた。赤ふんの飛脚でお馴染みの佐川急便から、カンガルーの西濃運輸、日本道路公団(写真1)、プリマハム、雪印チーズ、中沢乳業などなど名の知れた会社から、有限会社〇〇興業、〇〇出版、〇〇ラーメンなど、日本から輸入してそのままの状態で行っているトラックは、その気にならずともすぐに見つかる状態であった。「なぜ、日本語を消さずに使っているのか？」ロシア人ガイドに尋ねると、「日本語を読める人がいないので、気にしていない。日本から来たトラック(性能がよい)である証拠」というもっともな回答が返ってきた。



写真1 道路清掃車

大型車で日本製以外では、韓国の大宇、起亜、そしてロシアのKamaz(カマズ)、Zil(ジル)などのメーカーが走っていた。

3. 乗用車

乗用車に限ると、ほぼ100%といっても過言ではないくらい、メーカー問わず日本車だけであった。トヨタ(レクサス)、日産はもちろんのこと、三菱、ホンダ、マツダにスバル、スズキ……ほぼすべてのメーカーを見かけた。左ハンドルのレクサスにいたっては、アメリカ合衆国で製造→日本へ輸出→日本で走行→ロシアにやってきた、とたいへん長い道のりをたどったことがうかがえる。ごくごくまれにアウディやベンツ、ワーゲンなどを見かけたが、ごくごく×10まれである。車種でいうと、そこはやはりロシア、SUV・四輪駆動車が人気であるという。

ウラジオストク市内から車で30分ほどの郊外にある「ゼリョーニー・ウーゴル」という丘には、日本中古車の野外販売市場がある。約3,000台の中古車が並び、見渡す限りの日本車は圧巻である(写真2)。野外販売市場といっても、個

人や業者が持ち込んだ中古車がずらりと並べられ、車のフロントガラスには、年式や走行距離、グレード、売り主の電話番号などが書かれており、気に入った車があると売り主に電話をして交渉するシステムだそうだ。



写真2 並ぶ車すべてが日本中古車

2011年8月26日の朝日新聞によるとこの場所には、かつては10,000台以上の日本の中古車が並んでいたような。激減の理由は、ロシア政府が国内自動車メーカーを保護するために行った輸入関税引き上げ。それでも日本の中古車の人気は冷めず、抜け穴として行われたのは、日本車をバラしての輸入である。つまり、バラバラにして"部品"として輸入するそうである。写真3は、ウラジオストク港に荷揚げされたバラして輸入されてきたスバル・インプレッサである。スパリスト(スバル車オーナーのこと)の私としては、何ともショッキングな姿であった。



写真3 真っ二つになったインプレッサ

新車市場はというと、ハバロフスクにある三菱の正規ディーラーアフト・ミール社でのパジェロの価格は、3.0リッター5AT、最安値のグレードで、車両本体価格144.9ルーブル(約435万円)であった。まさに高嶺の花である。中古車に人気ができるのにも頷くことができる。

おわりに

今回の海外研修は、3年前の中国上海研修時の「参加者」から「企画者」の一員として、米山先生、中村先生とともに練りに練って行程を検討してきた。現地の様子を探るにせよ、全くといってよいほど「情報が無い」というのが現状であった。ネットで調べれば……という安易な考えも全く通用しなかった。そんな中、在ハバロフスク日本国領事館の副領事竹内昌平氏と知り合えたことは、非常に大きかった。安全情報はもちろんのこと、われわれのスケジュールや研修地へのアドバイスなどなど、どれも有益な情報であった。また、先述の三菱正規ディーラーを紹介いただいたのも竹内氏であった。ハバロフスク滞在中は、ご多忙中にも関わらず、われわれの宿泊するホテルまで出向いていただき、一同貴重なお話を伺うことができた。ここに、竹内昌平氏に感謝申し上げます。

私にとっての「ロシア」

上智大学学部生 市川 恵

ロシア。ロシアといえば、ソ連、プーチン、チェブラシカぐらいで、特に他に知識は持ち合わせていなかった。しかし、だからこそ、私が目にしたこと、感じたこと、心に残っていることを、素直にありのままの形で語れるのではないか。今回は、それらを言葉としてここに留めるということを試みたい。

成田を発ち、数時間後には既にロシアにいた。こんなに近い「ロシア」もあるのか、と不思議な感覚だった。ヴィヴィッドな、まるでコスプレのような制服を身にまとったスラヴ系の美人なCAたちに異様な雰囲気を感じながらも、私たちはそこを後にした。既に夜10時を回っていたと思う。ホテルまで移動するバスから見える「ロシア」の風景は、ネオンでいっぱいだった。まるで遊園地のような風景が、リアルな街として実際に存在することを知った。

翌朝は、ナホトカの港を見に行っただ。大量のコンテナが敷地いっぱいに整然と並べられている一方で、手前に何か工場らしき建物があり、そこから茶色がかかった気体が吐かれていた。私は、この国が環境に配慮しているとは思えなかった。その後は、石油のパイプラインや、地

平線が見えないほど奥まで広がるコルホーズの跡地を見に行っただ。また、細かく砕かれた石炭が積み上げられている現場も、初めて目の当たりにした。パイプラインにしろ、コルホーズにしろ、あまり私たちは歓迎されていないようだった。バスの外での質問も、長く見学していることも憚られ、追い払われるようにして出てきたのを憶えている。だが、なぜそんなに、これらが国家機密事項となるのか、私にはよく分からなかった。

そして3日目の朝は、展望台から港を一望することから始まった。海に日の光が反射して、眩しかった。来年開催されるAPECの会場ともなるルースキー島へかかる橋も建設中だったが、工事が予定通り終わるのか、不安の残る進行状況であった。

午後は、日本の中古車販売をしているディーラーへ向かった。そこは一面、日本車、日本車。どこまでも日本車が続いているのであった。車を売っているロシア人たちが日本人である私たちを見て笑っていた。「お前らが使っていた車だろ」とでも言っていたのだろうか。車は乗用車から、バイク、トラック、クレーンまで、各種取り揃えてあった。確かに街を見渡せば、道路を行き交う車はほぼ全てが日本車と言っても過言ではなく、漢字の印字された車が当たり前のように社会に溶け込む様子は、ここは日本ではないのかと錯覚させるほどであった。ただ、日本ではあれほどまでに砂埃で薄汚れた車は走っていない。APECに向けてなのか、街の至る所で工事が行われていたのだが、通行人の安全性への配慮はなく、穴はむき出しで掘られていた。車が汚れていたのも、そのせいなのか。私自身も、汚れた空気を体内に取り込んでしまっている気がしてならなかった。

また、なかには、「夢中」と大きく後ろの窓にプリントした車を走らせているロシア人もいた。港でも、日本語のプリントされたTシャツを着た職員が歩いている姿も目撃した。彼らにとって、日本製を所有していることが一種のステータスになっているのかもしれない。

そしてその夜、私たちはシベリア鉄道に乗りこみ、ウラジオストクを後にした。初めての夜行列車は、「世界の車窓から」さながらであった。ロシアの日が落ちるのは速い。あっという間に暗くなり、外の風景は見えなくなっていた。し

かし私たちの夜は長い。ウォッカとサーモンを口にしながら、教育やら進路のことやらを語り合った。きっと、旅の醍醐味って、人と出会って、多様な価値観に触れることなんじゃないかと、その時思った。

朝起きると、そこはハバロフスクであった。ウラジオストクは騒然とした街であったが、ハバロフスクは静かで落ち着いた街であった。この日は、アムール川を遊覧したり、自然保護地区のタイガの森を見に行ったりした。森を抜けると、川を挟んで向こう岸に、いかにも中国らしい建造物が双眼鏡の奥に見えた。

夜は、日本領事館の副領事の方をお招きして、ロシアでの生活について、お話をうかがった。かなり興味深いものであった。私はロシアに来る以前に、「欧米諸国ではかつて国家からの自由を求めて市民が立ち上がったことがあるのにたいして、多くのロシア人は国家によって自分たちの存在が保障されると思っている。国家による支配のおかげで生活が成り立つというわけであり、国家は絶対的な存在なのである。」という内容の本を読んでいた。よって本会合は、これを確かめる絶好の機会だったわけである。そして、ロシア人には憲法を守るという概念がないことや、絶対的権威を頼りにしていることなどが分かった。市民革命を起こして、国家に憲法をつきつける。そして各個人が自らの権利を行使する民主主義国家を樹立するという、私の歴史認識は相対化された。このような場合、近年興隆しているシティズンシップ教育はどのように捉え、なされているのだろうか。社会主義の本質とは一体、何であったのだろうか。マルクス主義は単なる危険思想とだけレッテルを貼っておけばいいのだろうか。私はロシアの社会について、もっと知りたくなった。

実はこの日、ホテルで食事をしている際、ホールの人たちが、食べている側のタイミングも求めも全く汲み取らずに、料理を提供し続ける姿を見て、「社会主義の名残なんでしょうね」と先生が呟かれた言葉が、ずっとひっかかっていた。とりわけ、アルバイトでのホール業にやりがいを見出している私にとって、彼らの仕事はかなり不満だったし、理解しがたかったのが本音である。単に仕事をこなす状態に陥るとは、このことなのか。サービス業が成立するのに、社会

の発展の段階なるものは在るのだろうか。人間がやりがいを感じながら生きていける社会の在り方とは、どのようなものなのだろうか。これらを考えることなしに、教育について考えることもできないのではないか。社会科に携わるのならば、尚更な気がしてならなかった。

そして私たちは、ナナイ族の村や日本人墓地に立ち寄り、この旅を終えた。私たちが行ったロシア、極東ロシアは、思った以上にのどかな場所であった。トマトやじゃがいも、きゅうり等の野菜を育て、車の行き交う道路脇で、おばあさんがその収穫物を売っているようなところだとは思ってもいなかった。寒々としたイメージも一転、日本に劣らず暑い気温には辟易したが、田園風景にはそこで暮らす人間の具体的な姿があり、日本の農家が恋しくなった。食べ物も、サーモンやいくらなど見慣れた食材も多く、ぜんまいに似た山菜さえもあり、その食し方は似ているのではないかと思われる。私にとって「ロシア」は、どことなく日本を想起させる、懐かしい場所であった。

ロシア沿海州の気候

—ヤマセは沿海州にも吹くのか—

公文国際学園高等部 中村 洋介

はじめに

ロシア・シベリア地域は、気候学習の中で亜寒帯冬季少雨気候として扱われる。今回の沿海州での研修を通じて、亜寒帯冬季少雨気候の中でも、沿海部と内陸部とでは明らかな気候の差を感じた。本稿では、滞在中に見聞きしたものと気候資料をもとに、同じ亜寒帯の北海道地方などと比較しながら、夏季の気候を中心に日本海沿岸のウラジオストク・ナホトカ、内陸のハバロフスクの気候の特徴について報告する。

1. 位置と地域の概要

ウラジオストクとナホトカは、北緯42~43度に位置する、日本海に面した港湾都市である。間宮海峡から南下した寒流のリマン海流は、沿海州沿岸を南西へ流れる。7月下旬のウラジオストク沖の表面水温は16°Cを示し、同じ日の敦賀沖の対馬海流と比べると10°Cほど低い¹⁾。

ハバロフスクは、ウラジオストクから北に500kmほど離れた北緯48度に位置するアムール川沿いの都市である。日本海とアムール川の間

には南北1,000km、東西300kmにわたり、標高1,000~2,000mの峰々からなるシホテアリニ山脈が存在する。ハバロフスクは、日本海から日本列島に近い幅をもったシホテアリニ山脈の西側に位置する。

2. 沿岸の気候と内陸の気候

ハバロフスクは、夏季・冬季ともウラジオストクより気温の日較差、年較差が大きいの(図1)²⁾。最寒月の気温は、両都市とも-10℃以下になる。両都市の1月の平均最低気温は、ハバロフスクが-24℃まで下がるのに対して、ウラジオストクは-16℃である。両都市の6・7月の平均最低・最高気温を比べると、ウラジオストクは、ハバロフスクよりも最低気温が2℃低く、最高気温が5~6℃低い。

ウラジオストクの6月と9月の降水量は、ハバロフスクの同月と比べて1.5倍ある。ウラジオストクの年降水量は、夏季の初めと終わりの降水量が反映して、ハバロフスクより140mm多い826mmである。ウラジオストクの6~9月の各月の降水量は100mmを越える。ウラジオストクでの聞き取りによると、6~7月にかけての朝晩は霧に覆われることが多いという。霧の発生日数は夏季のウラジオストクが際立って多い(図2)³⁾。

ナホトカの7月25日早朝はウインドブレーカーを着るほど冷え込んだ。吐く息は白く、体感では15℃より低く感じた。26日のウラジオストクでは、早朝は晴れ間がみられたが、昼頃には気温が低下して低い雲が街を覆いはじめ、やがて小雨が降り始めた。午後3時頃の街中の温度計は23℃を示していた。27日にハバロフスクへ移動した後は、日中の最高気温は30℃前後になり、天気は快晴であった。日本の夏季ほど蒸し暑くなく快適な湿度で、半袖シャツでの行動で十分な気温であった。29日には樺太に高気圧、本州に梅雨前線が広がる気圧配置のもとで、沿海州上空を日本海に向けた飛行機から、日本海側に広がる低高度の雲が内陸の山脈に遮られている様子が観察された(写真1)。

夏季の全天が雲に覆われた日数を比べた(表1)⁴⁾。ハバロフスクは全天が雲に覆われた日数が月の10分の1程度であるのに対して、ウラジオストクは月の3分の1の日数で全天が雲に覆われる。

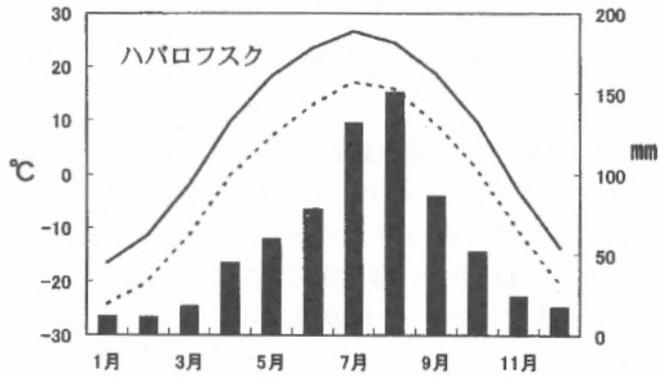
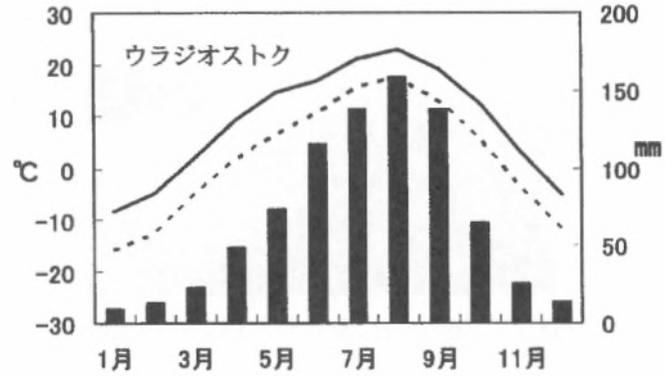


図1 ウラジオストクとハバロフスクの雨温図
実線は最高気温の月平均・破線は最低気温の月平均

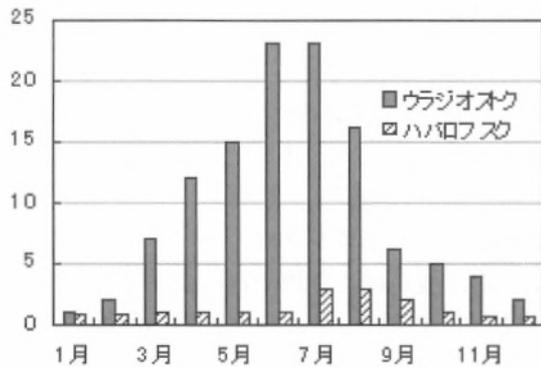


図2 霧発生の平均日数



写真1 山脈(左)に遮られた低高度の雲(右)

	天候	6月	7月	8月
ウラジオストク	快晴	7	6	8
	曇	11	12	9
ハバロフスク	快晴	13	13	12
	曇	2	3	4

表1 夏季の快晴と曇の日数

3. 考察 一内陸性気候と海洋性気候一

ハバロフスクは日較差・年較差が大きい内陸性気候の特徴を示すのに対して、ウラジオストクはそれが小さい海洋性気候を示す。夏季のウラジオストクは、一日の最高気温が20°C前半を示して、同じ緯度付近にある北海道・旭川と比べても冷涼である⁵⁾。また、ハバロフスクは旭川と同じように気温の年較差が比較的大きい。

旭川に近い緯度にある北海道・釧路は、8月の平均最高気温は21°C、1月の平均最低気温は氷点下10°Cであり、内陸の旭川と比べて年較差が小さい。釧路の気温は、南に隣接する海洋の影響を強く受けている。ウラジオストクは、釧路と同様に沿海を寒流のリマン海流が流れる。ウラジオストクは、リマン海流の影響を受けて、夏季は冷涼で気温の日較差・年較差とも小さい。ウラジオストクとハバロフスクは、日本でいえば釧路と旭川の関係に似ている。

夏季のウラジオストクは、ハバロフスクと比べて、雲に覆われる日数や霧の発生が多い。北緯43度という位置を考えると、梅雨前線の広範な影響を受けることはあっても、北海道以南の日本ほど降雨が連続することは期待できない。したがって、ウラジオストクの6・7月の曇りと霧の発生は、釧路と同じような気候的要因をもつことが考えられる。

海水温が気温よりも低いときに発生する濃霧

を海霧といい、ヤマセとよぶ三陸沿岸や北海道東岸の冷たい海霧の侵入がよく知られている(吉野1978)。ウラジオストクにおいても、夏季のオホーツク海高気圧から吹き出す冷涼な北東や東からの気流が沿海のリマン寒流に沿って侵入し、海霧やヤマセが吹くときに発生する低い高度の雲をもたらすことが考えられる。また、ハバロフスクの夏季の晴天の多さは、日本海側からシホテアリニ山脈を越えたフェーンが一部影響していることが考えられる。

おわりに

日本列島北部と類似した海洋的、地形的背景をもつ沿海州において、夏季の気候の特徴を考察した。ここでは詳細な気圧配置や風向については触れられなかった。考察は滞在して感じたものである。地理の教師としてフィールドでの体験や海外研修の重要性を改めて感じた。

注

- 1) 海上保安庁の2011年7月25日海洋速報水温水平分布図を用いた。この日の北海道釧路沖の表面水温は15°Cである。
- 2) ロシアの天気情報サイトの気候資料より作成。<http://pogoda.ru.net/>。
- 3) 前掲2)。
- 4) 前掲2)。
- 5) 気象庁AMeDASの資料を用いた。旭川の8月の平均最高気温は26°C、2月の平均最低気温は氷点下13°Cである。

参考文献

吉野正敏 1978, 『気候学』大明堂。

意外と近いロシア

—お節介なロシア極東プロモーター—

公文国際学園高等部 米山 宏

はじめに

今夏、県教科研地理分科会主催の海外研修でロシア極東方面を訪れる機会を得た。一行は初日に成田を飛び立ちウラジオストクに向かったが、その飛行時間はわずかに2時間ほどである。その後ハバロフスクにも訪れたが、極東の2大都市はいずれも美しい町並みを持った「西洋」の顔をしていた。この稿では日本人にあまり知られていない魅力あるこの地域を勝手にプロモートし、簡単ではあるが集客のための方策を考察する。

1. 日本人のロシア極東観光の実態

下表によれば韓国はソウル以外にも直接釜山などに入国する手段があるものの、大部分はソウルへの訪問と考えられるし、シンガポールはまさに1都市への訪問者数と捉えられる。特に韓国はロシアと共に近隣国であり、日本からの航空機での所要時間もさして変わらないのに、ロシア沿海州との訪問客との差は歴然である。

各地域別日本人訪問者数(人) 筆者作成

年次	2006	2007	2008	2009	注
ロシア沿海州(観光客のみ)	8,316	5,529	4,814	3,496	1)
ロシア沿海州(全体推計値)	16,600	10,400	9,400	6,700	2)
韓国	2,338,921	2,235,963	2,378,102	3,053,311	3)
シンガポール	504,406	594,514	571,040	489,087	3)
ロシア全体	97,648	83,621	86,237	74,159	3)

- 1) 「主要国運輸事情調査・ロシア連邦(沿海地方)」(2011年3月)国土交通省より抜粋。
ウラジオストク市他周辺都市含む。ハバロフスク市は地域外のため除く。
2) 今回研修の旅行代理店であるJIC(株)から提供を受けたデータを参考にして筆者が推計。観光客に商用客も含めた全体推計値。
3) 「2006～2010各国地域別日本人訪問者数」日本政府観光局より抜粋。

2. 2大都市の観光資源

現在ウラジオストクは2012年開催のAPECに向けて至るところでインフラ整備の真最中である。空港・道路・橋・鉄道と多岐にわたる投資を行っている¹⁾。特に会場となるルースキー島では会議場やホテルなどの観光インフラの建設が急ピッチで進められており(写真1)、会議後はリゾート地として売り出す計画もあるようだ。ウラジオストクは坂の多い港町でその分景観も変化に富んでいる。目前の海はまさに日本海であり、夏なら海水浴も可能である。



写真1 建設中のルースキー島に架かる橋
(撮影日時は日本時間)

反対にハバロフスクはアムール川の河畔に開けた街で比較的低平である。通りは広く直線的でトラムが通っておりヨーロッパの町並みとよ

く調和している。アムールはさすがの大河で、川幅は1～2kmもあり、冬期は凍結し対岸まで歩いて渡ることができる。街はアムール川の東側に展開しているので夕日は川の向こうのシベリアの大地へと落ちてゆく(写真2)。ハバロフスクは日本人にも馴染みの深い場所で、第2次大戦中の日本人抑留者の墓地がある。



写真2 アムールに沈む夕日
(撮影日時は日本時間)

いずれの街でも多くのレストランでロシア料理が堪能できる。日本人の口にもよく合う味で、美味しく値段も高くはない。昨今の日本ではB級グルメがブームになるなど、概して日本人は食に関しての興味は強いようである。旅の目的が決してB級ではないロシア料理を巡るツアーなどがあってもおもしろいかもしれない。

3. 集客課題と将来展望

現在成田からのロシア極東方面のアクセスはウラジオストク航空のウラジオストク線、ハバロフスク線に頼るのが一般的であるが、両線とも週2便で運航されているのが現状である²⁾。

勿論需要を反映しての設定であろうが、需要拡大のためにはせめて隔日運航が必要ではないか。幸い上述したように、とくにウラジオストクのインフラ整備は急ピッチで進んでいる。まずは入り口である現地への足(航空便や船便)の確保、そして豊富とはいえない現地での滞在場所(ホテル)や観光地としての魅力的な街づくり等ハード面の整備を行い、その後に観光客受け入れのためのソフトを充実させてゆくのが王道であろう。

その点では2009年のロシア政府の決定を有効に活用したい。それは観光目的に限って72時間以内の滞在ならビザは不要とするものである³⁾。こ

れを上手く活用できるのが境港(鳥取)から韓国のトンヘ(東海)を経てウラジオストクに至るDBSフェリーである。このフェリーを利用すればピザ無しの2泊3日のウラジオストク滞在が可能となる⁴⁾。現在でもソウルや上海へは1都市滞在型の自由旅行で数万円からと破格の値段が旅行代理店各社から出されている。フェリーを利用しなくてもそれら諸都市と同じ条件で売り出せばそれなりの集客が見込めるのではないか。

確かに両都市はソウルや上海のような巨大都市ではなく、インパクトの大きい観光地が存在する訳でもない。しかし歴史や食、そして美しい町並みなど、小粒でも意外な魅力に溢れた街である。とにかく日本人にはそれが周知されていない。次回のAPECはまたとない機会であり、代理店をはじめ、運輸・ホテル関係者に両国政府機関が協力してプロモートすることで、多くの日本人に興味を抱かせることが可能なのではないか。

おわりに

地理の教員にとってロシア極東地域が距離的に近いという事実は自明の理であるが、多くの日本人にとって感覚的には遠い国なのであろう。それは帰国して多くの知人に所要約2時間の事実を伝えると一応に皆驚くことから伺える。2時間という距離は国内でいえば東京から沖縄に行くよりむしろ近い。国内旅行の感覚で「西洋」を実体験できるのだ。遠い異国であるという心理的な事実認識の壁を取り払い、多くの日本人が彼の地を訪れるようになった時、それは両国の政治経済交流にもプラスに作用することとなろう。

注

- 1) ロシア政府によるAPEC関連予算は、連邦特別プログラムである「アジア太平洋地域における国際協力の中心としてのウラジオストクの発展」により拠出されており、その額は6,620億ルーブルとなっている。
- 2) ウラジオストク航空のダイヤは主に夏期ダイヤ、冬期ダイヤに分かれており、冬期では成田～ハバロフスク便は運休となる。またこれとは別にサハリンのエジノサハリンスクへの便は通年運航している。
- 3) ピザ無し渡航の決定後、サンクトペテルブ

ルクではヨーロッパからの観光客の数が数倍に増加しているという。

- 4) 韓国籍のフェリー会社DBSフェリーによる定期貨客船イースタンドリーム号は以前はウラジオストクの停泊は1泊2日のみだったが、2010年9月より2泊3日停泊するダイヤに変更された。

参考文献・資料

- 「ポストーク通信864号」(2010)(株)JSN
 「ポストーク通信880号」(2011)(株)JSN
 「ロシア極東の輸送インフラとその利用」
 辻久子、ドミトリー・セルガチョフ
 ERINA REPORT Vol. 70 (2006)

極東ロシアにおける石油輸出

渋谷教育学園渋谷高等学校 竹林 和彦
はじめに

ナホトカが面する湾を時計回りに東へ回り込み、湾の東側の突端に近づくとコジミノという小さな集落がある。コジミノはさらに小さな入り江に面しており、その対岸に石油積み出し港がある(図1)。周りには、集落もほとんど見られない場所で、丘を越えると突然近代的な施設があらわれ驚かされる。この積み出し港こそ、はるばる西シベリアから運ばれた石油が日本などに向けて輸出される港だという。本稿では、現地で得た情報と感想をもとに、極東ロシアにおける石油輸出に関する報告をする。

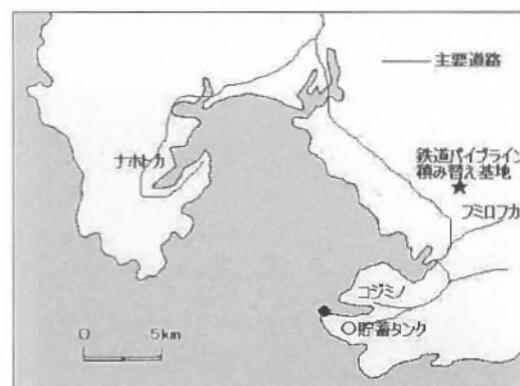


図1 ナホトカ周辺(筆者作成)

1. 石油積み出し港

コジミノにある石油積み出し港(写真1)は、2009年12月9日に開港した。水深26メートルの入り江に面して造られ、30万トン級のタンカーが接岸できる。



写真1 コジミノの石油積み出し港

ここからの輸出は主に日本向けであり、他にも韓国、タイ、シンガポールに向けて輸出が行われているという。港からは直接見えないが、すぐ近くの背後の丘の上には石油タンクが7個並び、そこからパイプラインによって積み出し港まで石油が送られている。輸出港の施設や石油タンク周辺の建物は鮮やかな青で塗られており、周囲とは異なる感覚をもつ(写真2)。



写真2 石油備蓄タンク

2. シベリア鉄道タンク車からの積み替え

コジミノに送られてくる石油は、コジミノから北東に直線距離で16キロメートルほど離れたフミロフカから、地下に埋設された石油パイプラインによって送られてくる。ただし、フミロフカで原油が採掘されているわけではなく、ここでは、シベリア鉄道のタンク車で運ばれた石油がパイプラインに積み替えられる貨物基地があるだけである(写真3)。

貨物基地はフミロフカの山あいには、タンク車が停車するための引き込み線と、タンク車からパイプラインに石油を移し替える施設(写真4)から成り立っている。訪れたときは、十数本あるかという引き込み線はすべてタンク車でうまっていた。数十両編成の貨物列車はこの引き



写真3 フミロフカの積み替え基地1



写真4 フミロフカの積み替え基地2

込み線で十両ほどに分離され、パイプラインに移し替える作業場に牽引される。この作業場から地下パイプラインを使い、コジミノにある石油積み出し港へ石油は送られることになる。

これらの石油はハバロフスクから約1,000キロメートル北西に位置するスコボロディノ¹⁾からシベリア鉄道を経由してフミロフカまでタンク車によって運ばれている。現地でのヒアリング調査では十分な確証は得られなかったが、運ばれる原油は、チュメニ油田を中心とした西シベリア油田のものと、バイカル湖北部の東シベリア油田のものである²⁾。

東シベリア油田から直接パイプラインでコジミノまで輸送することが可能になれば、年間約5,000万トン(日量100万バレル)の石油が送られることになるという³⁾。現在完成していないが、このパイプラインは東シベリアパイプライン、ナホトカルトと呼ばれる。

3. 東シベリアパイプライン

東シベリアパイプラインは、2003年1月の小泉首相(当時)のロシア訪問の際に日本側が協力を提案したことを契機に注目を浴びるようになったプロジェクトである⁴⁾。

ロシアのトランスネフチが建設を進めるこのパイプライン(図2)は、アンガルスクからガザチンスコエ、トゥインダ、スコボロディノを経由してナホトカまで伸びるものである⁵⁾。現在、スコボロディノーナホトカ間が鉄道輸送になっているが、外務省の「日露経済関係概観」によれば、「2008年4月の福田総理(当時)の非公式訪露に合わせ、石油天然ガス金属鉱物資源機構(JOGMEC)がロシアの独立系石油企業イルクーツク石油と共同でイルクーツク州において探鉱事業を行うことを発表し、2010年にこの事業によって原油・ガスが発見された。この発見が将来の石油生産につながれば、『東シベリア太平洋』パイプラインの第2段階(スコヴォロジノ〜ウラジオストク近郊)の通油量確保に貢献することが期待される。」とされる。しかし、石油の量的確保とともに、このパイプラインは建設費用が高いこと、周辺環境保全の確保がネックになっている。

おわりに

日本にとって、エネルギー安全保障、特に石油の中東に頼りすぎない確保は重要な案件である。シベリアからの年5,000万トンの石油の確保は重要なことである。経済発展著しい中国との間で、ロシア産の石油の綱引きもあり、簡単には東シベリアパイプラインの全線開通にはこぎつけないかもしれない。そのような状況の中で、

シベリア鉄道によって運ばれる石油のタンク車を見て、その編成の長さに驚かされるとともに日本のエネルギー事情を垣間見た気がした。

注

- 1) 地名は帝国書院発行の地図帳表記に従った。
- 2) 岩城(2004)による。
- 3) 現地ヒアリングおよび岩城(2004)による。
- 4) 小森(2005)による。
- 5) 通過都市は岩城(2004)による。

参考文献

岩城成之(2004) 東シベリア石油パイプライン計画と我が国の取り組みー現状と問題点ー、「レファレンス」平成16年10月号、pp.9-33、日本図書館協会。
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/refer/200410_645/064501.pdf(2011.8.30閲覧)

小森吾一(2005)ロシアの原油輸送システムの問題と国営パイプライン企業トランスネフチの役割、「エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集」21、pp.525-528、日本エネルギー経済研究所。
<http://eneken.ieej.or.jp/data/pdf/1016.pdf>(2011.8.30閲覧)

外務省(2010)日露経済関係概観、
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/keizai/gaikan.html>(2011.10.30閲覧)

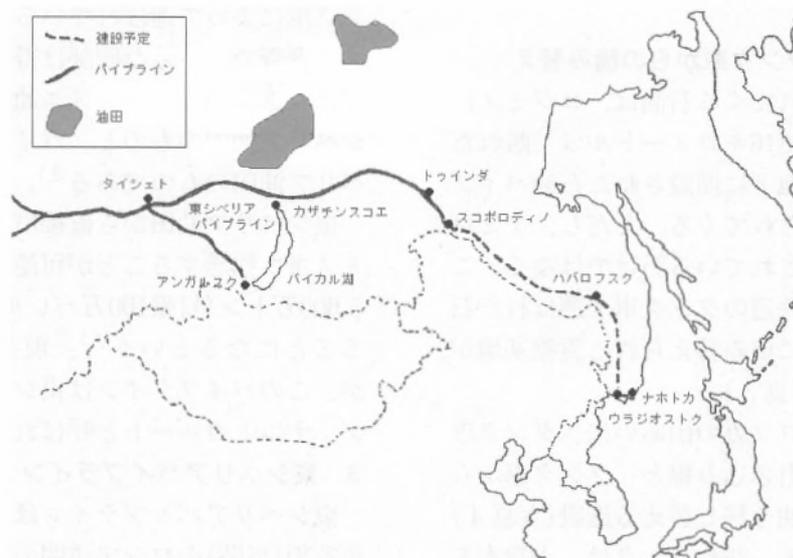


図2 東シベリアパイプライン (筆者作成)

シベリア寸描

元県立ひばりヶ丘高等学校 藤見 睦彦

ロシア訪問は2回目である。最初の海外旅行である1回目は1972年、旧ソ連時代のモスクワとレニングラードであった。今回は極東地方である。今回の巡検時、1ルーブルが約3.5円。当時は1ルーブルが370円で、ソ連崩壊後の経済の変化を実感する。この地域は一度訪れたいと思っていた。というのは子どもの頃、「異国の丘」や「ハバロフスク小唄」に歌われていたシベリアに何となく思いを馳せていたからである。勿論、日本兵のシベリア抑留の歴史を知ってはいなかったのだが。退職後、東洋文庫でアルセーニエフの「デルスウ、ウザーラ」と「タイガを通過して」を読んで行ってみたいと思っていたところ、教科研の「ロシア沿海州研修」の案内があり、すぐに参加を申し込んだ。

さて、週2便しかないウラジオストク航空の飛行機で、ウラジオストクに着く。空はまだ薄明るい。宿泊地のナホトカへ、沿道が森林で人家も街灯もない道をバスで真夜中に着く。翌日、抑留者が舞鶴に向かったナホトカの現在のコンテナ港を眺望した。石炭、褐炭の積出施設やコンテナヤードがあり、往時の面影はない(写真1)。



写真1 ナホトカ港の一画

丘の上にあるパイプラインからの貯油施設は規模も大きく、監視されていてバスからの見学を余儀なくされる。途中貨物列車の通過する踏み切りでガード板が上がって車の進入を防ぐ装置を見た。昨夜の道をウラジオストクに戻ったが、沿道は耕地らしきものはない。牛が放牧された草原と林で、人工の構造物は皆無である。集団農場だったらしい農地があり、2012年開催予定のAPECに向けての道路と鉄道工事の進む

ウラジオストク郊外になり、やっと人の棲む風景になる。

3日目、シコータ半島の先端展望台でAPECに向けて建設中のルースキー島への横断橋を遠望したあと、ウラジオストク駅に至る。シベリア鉄道の起点の駅で重厚な造り。淡い深緑のタイルがシックである。隣接するフェリー埠頭の中古車ヤードでは税金のがれの為、車体を真二つにされた日本車が並ぶ。あとから溶接するそうで嘖然とする。鷺の巣展望台から金角湾内の軍港を眺望し、日露戦争の時、バルチック艦隊が入港しようとした港かと、暫し感慨にふける。市中の自由市場を覗くと商品が豊富で、ソ連時代と異なり市場経済転換後の様子をはっきりしている(写真2)。朝鮮人がキムチや香辛料を売る一画もあり、土地柄を感じた。郊外の日本車の中古車市場は丘一帯に広がっていた。極東シベリアでは中古の日本車が人気で、街中で見る車も日本車が圧倒的である。日本の会社名のままのトラックも、結構見受けられる。



写真2 ウラジオストク市内の市場

是非、見学したいと思ったアルセーニエフ博物館の入口に辿り着くのに苦労する。それらしき建物を見つけ、立ち話をしていた青年に聞くところだと頷く。中に入ると違い外に出る。警官に聞くと交差点の先を指す。また戻って、やはりこの建物だと思い定め、やっと入口を探し出す。なんと警官の立っていた角を曲がった直ぐの道であった。ロシア語が判らないための徒事足であった。戦前、最盛時には6千人を超える日本人が暮らしていたことを窺わせる日本商店分布図や10C. の宋の古銭、ナナイ人などシベリアの少数民族関係の展示など100ルーブルの入場料で堪能した。夕食後、お札の様な立派な乗車券をもらいシベリア鉄道のオケアン号に

乗車する。2等4人部屋のコンパートメントで、まあまあの乗りごちである。ウスリー川沿いの鉄路で夜行の為、惜しいかな沿線風景は眺められない。なにしろ、外は人工物のない原野の連なりで、時たま停車する駅の灯だけである。

ハバロフスクは極東の中心地だけあり、人口80万人の大都市である。アムール川沿いのムラヴィヨフ、アムールスキー公園に面したウスペンスキー教会の屋根が陽に映えている(写真3)。



写真3 ムラヴィヨフ、アムールスキー公園とウスペンスキー教会

第2次世界大戦犠牲者慰霊碑近くの極東ロシア最大のスパソプレオブラジェンスキー大聖堂も立派である。2003年の建立だそうで、ソ連崩壊後のロシア正教復権を思わせる。すぐ近くの行政官庁の壁面にレーニンを始めソ連時代の人物のレリーフがずらりと並んでいるのも移行期のロシアの姿を思わせる。昼食後、アムール川を船で遊覧する。網走に押し寄せる流水はアムール川の真水であると新聞記事で読んだことがあるが、アムール川は黄濁していた。郊外のヘフィツィール自然保護区は中緯度混交林と針葉樹林の境目に位置しているというが、歩いた林内はほとんど広葉樹でタイガを見ることはなかった。タイガの景観を見ることはなかったのは残念だが、アムール川の中口国境を観察できた。両岸には相方の国境監視塔があり2008年、国境画定で中国領になった対岸の大ウスリー島には漢字を記した中国の建物も遠望できた。夕食後、再びアムール河岸に出て壮大な夕日を眺める。「赤い夕陽が野末にもえる。ここはシベリア北の国……」と歌う「シベリアエレジー」の歌詞を思い浮かべる。

翌日、日本車の販売ディーラーを見学する。

百万から数百万ルーブル(300万円以上)の新車が展示されているが新興成金が買うのだろうか。午後の自由時間に郷土博物館、極東美術館、赤軍博物館をまわる。三つとも宿泊したインツォリストのホテルの近くにあり、極東美術館ではレーピンやブルーゲルの絵を見つけた。イコンの数々も捨て難い。スリッパのかわりに靴をすっぽりおおう履物をはかされた。赤軍博物館ではノモンハン事件を表現した生々しいジオラマを見て考えさせられた。裏庭には戦車や戦闘機が年代ごとに展示され入館するのではなかったと後悔した。その後、トラムが走り西欧風の建物が並ぶムラヴィヨフ・アムールスキー通りから緑の多い公園が続いているようなアムールスキー並木通りを経てホテルに戻った。最終日はハバロフスク空港に行く前に日本人墓地を参拝した。市内の共同墓地の一面に鉄柵に囲まれて約150の土葬されたシベリア抑留者の墓があった(写真4)。第2次世界大戦後、推定57万人の日本軍人がソ連軍の捕虜となって約6万人が過酷な強制労働の下に犠牲となって死亡したが、その一部がここに眠っているのだ。赤軍博物館といい、この日本人墓地といい、改めて過去の歴史を思い遣ることとなった。

今回の巡検は広大なシベリアの一地方であったが、その広々とした自然とソ連崩壊後の新生ロシアの一面、そして子どもの頃に思いを馳せた地を実感した旅であった。



写真4 ハバロフスクの日本人抑留者の墓地

現地で購入した地図について

栄光学園高等学校 伊藤 直樹

ソヴィエト連邦の時代に、この地域の地図を手に入れるのは、軍事機密ということでまず不可能であったようだ。その頃に比べると、外国人でも簡単に大きな縮尺の地図を書店などで購入できるというところに、ロシア連邦になってからの大きな変化を感じる。

ただし軍事機密は現在もあり、入手できる地図の縮尺の限界は市街地を除けば1:100,000であり、軍事施設の不掲載もあるようだ。そのあたりのことは、少々前の2003年のものだがhttp://www001.upp.sonet.ne.jp/dewaruss/russian_maps.htmに出羽弘氏の評論がある。

今回の研修で訪ねたところや、沿海州周辺の地図を入手してくるということも、私の大きな目標であったので、限られた時間ではあったが書店やホテル売店等で買い集め、結局全部で14点にもなってしまった。

以下は購入した地図の一覧である。

- ①ウラジオストク市街 1:20,000
(中心部 1:7,000 全体図 1:200,000)
- ②ハバロフスク市街 1:30,000
(中心部 1:10,000 全体図 1:200,000)
- ③ハバロフスク地方 1:1,000,000
(ハバロフスク市周辺 1:200,000)
- ④ユダヤ自治州 1:500,000
- ⑤カムチャツカ地方 1:1,000,000(ペトロパヴロフスクカムチャツキー 1:200,000 クリュチェフスカヤ火山・シベルチ火山 1:200,000)
- ⑥サハリン州 1:500,000(ユジノサハリンスク 1:200,000 クリル諸島 1:1,000,000)
- ⑦プリモルスキー地方南部
(基本図の地図帳 1:100,000)
- ⑧プリモルスキー地方全域(基本図の地図帳 1:200,000 一部都市の拡大図を含む)
- ⑨プリモルスキー地方(主題図の地図帳)
- ⑩ハバロフスク市とその周辺
(基本図の地図帳 1:100,000)
- ⑪ハバロフスク市歴史地図帳(1858-2008)
(19世紀の地図、各種主題図や市街地の拡大図等を含む)
- ⑫地形図 1:200,000オノル(サハリン州)
- ⑬ロシア連邦全図(行政区画 1:8,000,000)
- ⑭世界全図(政治区画 1:50,000,000)

購入した場所は、①はウラジオストク鷲の巢

展望台近くの土産店、②～⑥はハバロフスクのホテルインツーリスト売店 ⑦～⑨はウラジオストク中央広場近くの書店⑩～⑭はハバロフスクのレーニン広場近くの書店である。レーニン広場近くの書店には品定めに迷うほど多種類の地図があり、短時間で購入するのはかなり厳しかった。

価格は①が250ルーブル、②～⑥が各170ルーブル、アトラスは300～500ルーブル程度、⑫の地形図は75ルーブルだった。

これらの地図を見て感心したのは、行政区画図や主題図を除くと、等高線を使った表現により、地形を比較的正確に把握できる点である。縮尺と等高線との関係を見ると、1:20,000～1:100,000の場合主曲線に該当する等高線が20m間隔、1:200,000の場合は40m間隔、1:500,000の場合は100m間隔、1:1,000,000の場合は200m間隔となっている。大縮尺の地図では日本の地形図に比べて表現が粗いが、小縮尺では日本の地勢図や地方図よりも細かく表現されている。特に⑤のカムチャツカ地方や⑥のクリル諸島は1:1,000,000の縮尺で主曲線が100m間隔(ただし山地は除く)と、より詳しく表されている。

主題図を集めたアトラスは、何を表現しているかおよそ見当はつくが、凡例を詳しく知ろうとしても用語の壁が厚く、手持ちの露和辞典程度ではとても手に負えない。たとえば日本の地図帳でタイガと表現されているハバロフスク周辺だが、実際に見学したとおり針葉樹林ではなく混合樹林であり、これを確かめようとする、⑪の主題図では樹木名を中心にかなり細分化されていることはわかるが、樹木の和名と対比できずお手上げ状態である。

世界全図では他国の表現が興味をひく。中国はキタイ(К И Т А Й)と表記され。アブハジアや南オセチアはグルジアと別になっている。

その他一つ一つとても文章で紹介しきれない内容ではないので、現物をご覧になりたい方はお声をおかけいただきたい。

最後に今回訪ねた場所を一つ紹介したい。⑩に掲載されている、ハバロフスク市街の北部である。バスで往復したアムール川の橋が見られるが、アムール川の北西に広がる湿地帯とそこを蛇行して流れる川の姿が見事である。

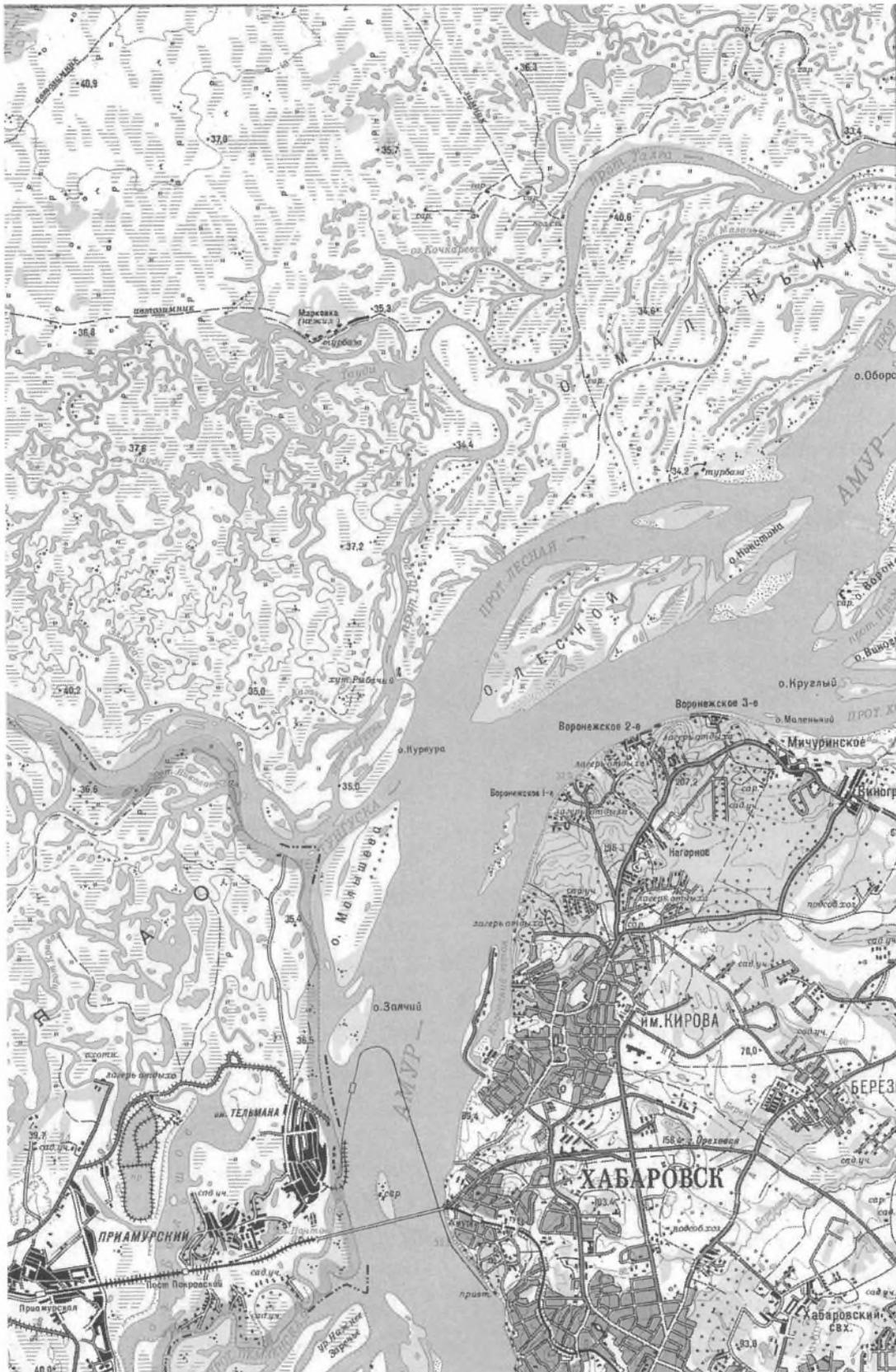


図 ハバロフスク地図 (1 : 100,000)

ロシアでない極東ロシア

ー日本と北東アジアの繁栄に向けてー

渋谷教育学園渋谷高等学校 石井 信博
はじめに

中国東北部に接し日本や韓国の方が首都モスクワより遥かに近い極東ロシアは、ロシア的でありながら、それでもヨーロッパロシアとは明らかに違った、独自の文化圏を形成している。ソビエト連邦が崩壊し閉鎖都市であったウラジオストクが外国人にも解放されて以来、この地域と日本との人的交流および経済的関係は拡大したが、2009年を境にそれらは急速に縮小し¹⁾、我々にとって再び近くて遠い場所になりつつある。しかしながら、この地域と日本が密接なつながりを持つことは、地政学的にも単に経済的にも重要なことであり、また、政治的な緊張が一時的に高まることはあっても、これまでの経緯を考えると困難な事業ではないと感ずる。

1. 今回の視察について

今回訪れたのは極東連邦管区の3都市。

最初に訪れた商港都市ナホトカにはまとまった市街地のある印象がない。複雑な海岸線に沿って数多くの港湾施設が作られている。1971年に日本の支援により建設されたポストチヌイ港もそのひとつである。

次のウラジオストク(1860年建設)ではまず、古くはないが一見してヨーロッパ(ロシア)を感じさせる街並みが目につく。その中を走る乗用車のほとんどが日本国内仕様の日本車であり、不思議な感じを覚える。また同時に街の中心は「革命戦士広場」であり、いまだソビエト的な色合いも強く残る。

ハバロフスクはアムール川中流の右岸に開けた、街路や園地の整った美しく活気のある街である。滞在中、在ハバロフスク日本国総領事館の竹内昌平副領事からお話を伺う機会を得た。

2. 政治・地政

2009年11月、メドヴェージェフ大統領はAPECでの演説で、ロシアをアジア国家と位置づけ、シベリアと極東地域の資源をアジア太平洋地域の発展に活用したいと述べ、域内諸国の相互発展の重要性を強調した²⁾。極東地域はGDPの約5%を占めるに過ぎないが、その経済成長率は2009年度に過去最高の3.5%を記録した³⁾。また2012年にはウラジオストクでAPEC

首脳会議が開催される。従ってこれから北東アジア各国がグループとして繁栄するためには、日本と極東地域の交易は拡大されるのが当然と考えられよう。

ところが、ロシアは2009年から輸入車に高い関税を課し、日本からロシアへの中古車輸出台数は、2007年には48万台、2008年には56万台だったのが、2009年には5万3千台、2010には10万5千台と格段に減少した⁴⁾。それに伴い人々の往来も減少し、日本とこの地域の間の定期航路・航空便も激減した。2010年にはメドヴェージェフ大統領が北方領土を視察し、以来日露の政治的緊張は決定的に高まった。



写真1 輸入関税を回避するため部品として切り離されて陸揚げされた日本車（ウラジオストクにて）



写真2 ナホトカのポストチヌイ港；コンテナの社名を視認した範囲では4割ほどが中国と韓国のコンテナ

他方、中国との政治的・経済的な関係が相対的・絶対的に強まっている。そんな中、中国より日本や韓国とも結びつきを強化すべきであるという視点⁵⁾や、APECでは表面上アジア重視の姿勢を見せながらやはり欧米重視のメドヴェージェフではなく、親日のプーチンの大統領再任濃厚な見通しを歓迎する向きもある⁶⁾。

3. 生活経済面

1990年代から経済活動のグローバル化は加速度的に進行し、ロシアも当然その渦中にあるが、首都モスクワから直線で6千キロ以上も離れたこの地域は、来年のAPECに向けて急ピッチのインフラ整備が進むウラジオストクも含め、(その善し悪しは別として)まだまだグローバル化から取り残されている感は否めない。

グローバル化指標のひとつであるKOF Index of Globalization⁷⁾は、人口1人あたりのマクドナルドとIKEAの店舗数を変数に含めているが、その視点を借りるなら極東地域のグローバル化はかなり遅れている。現在ロシア連邦内にマクドナルドは245店舗(2010年時点)⁸⁾、IKEAは12店舗⁹⁾、H&Mは16店舗¹⁰⁾、ZARAは51店舗¹¹⁾あるが、この地域にはいずれのチェーンも1店舗も展開していない(ウラジオストク、ハパロフスクともに市域の人口は60万人弱；日本国内でZARAは20万人規模の都市にも多く出店している)。

一方で、乗用車の9割以上¹²⁾は日本車(中



写真3 乗用車の他にもこのようなトラックをよく見かける



写真4 清涼飲料のサンプル(ガソリンスタンドにて)

古および新車;写真3)、バスは新しめのものはほとんどが韓国車である(左ハンドル必須のため日本車を活用できないためであろう)。私たちが訪れたレストランでは、トイレのドアに中国語のプレートが貼ってあるところもあった。また、売られている清涼飲料ではコカコーラ社やペプシコ社の製品と並んで、サッポロ飲料やダイドードリンコ社のものも多く見られた(写真4)。このように、日常生活レベルで東アジアとの結びつきが極めて強い。

4. 文化・民族

極東ロシアと日本人との関わりは歴史的にも深く、戦前にはウラジオストクに非常に大きな日本人街が存在した。戦後、ソビエト時代においても双方の姉妹都市間で交流を深めていたことが、ナホトカ市内の記念碑などから伺える。

また、この地域では日本語教育が非常に盛んである。ハパロフスクの竹内副領事によれば、一般的に、ロシア人の日本人に対する感情は非常に好意的であり、むしろ尊敬の念に近いものがあるとのことである。

まとめ

上述の通り、極東ロシアはヨーロッパロシアとは生活圏が完全に異なり、アジア圏との交易が相対的に多く、独自の文化圏を形成しつつあると実感した。今後この地域で日本の影響力が回復する見込みは高く、極東地域・中国・韓国と日本がバランスよく互いの資源を共有し繁栄を探ることが、多極化する世界で重要と思う。

注

- 1) 在ウラジオストク日本国総領事館HPによる。
- 2) Medovedef, D. (2009) 他による。
- 3) Nishimura, Y. (2010) による。
- 4) 中古車輸出海外マーケット研究会による。
- 5) Blank, S. (2010) による。
- 6) 菅原(2011)による。
- 7) Dreher, Axel, Noel Gaston and Pim Martens (2008)。
- 8) Marketwire (2010)による。
- 9) <http://www.ikea.com/> による。
- 10) <http://mystore411.com/store/listing/2036/Russia-a/H-M-store-locations> による
- 11) <http://www.inditex.com/en/> による
- 12) 筆者の観察による

参考文献

- Blank, S. (2010) Russia's Far East Policy: Looking beyond China. Russia/NIS Center.
- Dreher Axel, Noel Gaston and Pim Martens (2008) Measuring Globalisation - Gauging its Consequences. Springer: New York.
- Medovedef, D. (2009) 'APEC: Toward a Stable, Safe and Prosperous Community' <http://en.rian.ru/analysis/20091113/156810697.html> (Retrieved on 31 Oct, 2011) 他
- Unspecified Author (2010) 'McDonald's Celebrates 20th Anniversary in Russia', <http://www.marketwire.com/press-release/mcdonaldsr-celebrates-20th-anniversary-in-russia-1109808.htm> (Retrieved on 31 Oct, 2011)
- 菅原信夫 (2011) 「日本重視へ舵を大きく切り始めたロシア～プーチン大統領登場で日露貿易活発化の予感」 Japan Business Press, <http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/26168> (2011年10月31日閲覧)
- 中古車輸出海外マーケット研究会、「中古車輸出統計」 <http://www.exguide.jp/toukei.html> (2011年10月31日閲覧)
- 「ポストチヌイ港」(2011年10月31日時点最新版)『ウィキペディア日本語版』

「沿海州の混合林とアムール川」

サレジオ学院高等学校 藤木 眞澄

今回の神奈川県社会科部会海外研修のお誘いがあり、理科(生物)の教師として、はじめにイメージしたことは「北方針葉樹林(タイガ)」と「アムール川」であったが、7月下旬に訪れたウラジオストク・ナホトカ・ハバロフスク近郊は昼間は30°C以上あり、湿度も高い状態で、植物群系は、針葉樹林と夏緑樹林が混じった「混合林」であった(タイガを見ようとすると、もっと緯度が高いシベリア中部から南部付近まで上がらなくてはならない)。

7月27日には、「ヘフィツィール自然保護区」を「イリーナ」という名の自然保護官の案内で短い時間であったが見学した。ナラ・タモ・トネ

リコ・シラカバ・カエデなどの落葉高木とチョウセンブヨウ(マツ属)・カラマツ・トウヒなどの針葉樹林が混在したうっそうとした熱帯多雨地方の"ジャングル"のような状態であった。「ヘフィツィール自然保護区」はハバロフスクの南西約40kmにありアムール川沿いの中口国境付近にある。ロシア側の対岸はヤナギが繁茂していたが、川の遠くに見える中国側には大きな建物が立ち、かなりの開発が行われ高木を見ることができなかった。今後、両国のアムール川沿いの開発が進んだ場合、アムール川とオホーツク海の生態系が大きく破壊されかねない状況を見た感じがした。

沿海州(ロシア極東南部)の混合林で、あまり開発されずに植生を残している地域は、ハバロフスクの南西のシホテアリニ山脈のピキン川中上流域、サマルガ川流域、アニユイ国立公園予定地と中部ウスリー国立公園予定地・上部ウスリー国立公園予定地で、この地域はロシアで最も生物相が豊かで、温帯と亜寒帯の生物相が混合した貴重な生態系を残しているホットスポットである。絶滅危惧種であるアムールヒョウ・シベリアトラ・ツキノワグマなどが生息し、世界でも希なヒョウ・トラ・クマが生活できる地域でもある。このような動植物を支える生態系は混合林の存在があっただけで初めて成立できるのである。無計画な伐採や盗伐により、このすばらしい生態系が破壊されないことを祈るばかりである。

アムール川とその流域の湿原や森林は日本にも大きな影響を与えている。日本付近の海洋生物群集の物質生産を炭素量で示すと90(g/m²・年)と中部太平洋や地中海の55~35(g/m²・年)と比べ倍以上の生産量を示している。この要因の一つにアムール川からの"溶存鉄"の供給がある。平成19年の北海道の漁業生産量(ホタテ・スケトウダラ・サケ・ホッケ・サンマ・イカ・コンブ・タラ・タコ・マス等)は全国の25.9%を占める。沿岸地区漁業組合員一人当たりの生産額は、オホーツク海とそれに隣接する太平洋の親潮地域では、日本全国の漁業生産量の20%を占めている。特にオホーツク海の沿岸地区漁業組合員一人当たりの生産額は、日本で最も高い。このことからオホーツク海という海は生物多様性と水産資源という恵みを我々に

与えてくれている。

では、なぜオホーツク海は豊かなのか。ここに出てくるキーワードは"アムール川がつくる溶存鉄"である。アムール川流域の湿原や森林から流れ出た"溶存鉄"が河口や沖合に堆積しながら、干満や海流によって底から上昇しオホーツク海や間宮海峡(タタール海峡)及び千島列島の間に流れ込み、海洋の一次生産者である植物プランクトンに吸収される。この溶存鉄は植物プランクトンが必要とする栄養素(無機塩類)の吸収に大きく関与する。いくら無機塩類が多くても、溶存鉄が少ないと、植物プランクトンは無機塩類を吸収できず、光合成(物質生産)は盛んに行われない。

植物プランクトン→動物プランクトン(一次消費者)→二次消費者→高次消費者という海洋生態系の食物連鎖を維持できるのは溶存鉄の存在があってはじめて成立する。

オホーツク海及び三陸沖の漁業は、このアムール川の溶存鉄の供給によって支えられているのである。この鉄の供給源はアムール川流域の湿原と森林の腐食物質である。

すでにアムール川の中国側の流域は古くから開発が進み、林地は加速度的に減少している。今後、ロシア側の流域でもモザイク状に開発され、流域の湿原や森林という『腐食物質→溶存鉄』の供給源が徐々になくなっていくことは、今後の地球温暖化を絡めて考えるとオホーツク海や北太平洋の生態系に大きな変化をもたらす可能性が考えられる。

今回の社会科部会海外研修は、上述のような問題を提起し、今後の生物教育、特に「生物群集の物質生産」には還元できるであろう。日本では想像できない大きなダイナミックな物質の流れ「森林・川・海」の関わりを感じることができた海外研修であった。

参考文献

- 白石孝行著『魚附林の地球環境学』昭和堂。
 柿澤宏昭・山根正伸編著『ロシア 森林大国の内実』日本林業調査会(J_FIC)。
 松永勝彦著『森が消えれば海も死ぬ 第2版』講談社(ブルーバックス)。



私の教材研究

地理教育にライフサイクル思考を―「かばんの中でも温暖化?!」の活用―

根元 一 幸 (県立座間高等学校)

はじめに

環境問題や資源・エネルギー問題は、地理教育で重要なテーマである。しかし、現象を表面的に追うことはできても、実際の生活と結びつけて考えることは、なかなかできない。環境問題を考える上で、“Think Globally and Act Locally”という発想が定着しているが、andの前後を結びつけ、地球のために身近な行動として何をすべきかが分からず、結局何もできない(=していない)人も多い。

このことについて、横浜国立大学の本藤らは、「グローバルな環境問題と個々人の日常の行動は、物質的には強く結びついているにも関わらず、その実感に乏しく認知的には断絶している。すなわち、両者の間には認知的な意味で「ミッシング・リンク」が存在している。このことが、問題解決のための行動に対する責任感や有効性の認知などを妨げている可能性がある。」¹⁾と述べている。

このミッシング・リンクをつなげるために、横浜国立大学大学院環境情報研究院本藤研究室では、ライフサイクル思考に基づいた中高生向けの教育用LCAソフト「かばんの中でも温暖化?!」を開発している。著者は、2008年度からこのソフトを環境問題の授業に導入し、Ver. 1の詳細な実践報告²⁾を2009年にしている。

本稿では、2010年度に座間高校1年生の地理Aでの実践を例に、Ver. 2にアップしたこのソフトを紹介するとともに、地理教育にライフサイクル思考を取り入れる有用性を考えたいと思う。

ライフサイクル思考とは

ライフサイクル思考について、本藤らは、「ライフサイクル思考という概念は、一義的に明確には定義されていないが、「製品や技術の利用に伴う目の前の直接的な環境負荷だけでなく、それらのライフサイクルに沿って奥に隠れた間接的な環境負荷をも追跡し、システム全体の環境負荷を考えること」と言える。ライフサイクル思考の重要な特徴のひとつは、作る、使う、捨てるという一連の流れすなわちライフサイク

ルをシステムとして切り出していることにある。」³⁾と定義している。

具体的には、例えば目の前のある製品について、その製造・使用・廃棄に至るまで運搬等も含めたすべての段階で、環境負荷をトータルに考えようというものである。

これを具体化するLCA(ライフサイクルアセスメント)では、ライフサイクルでの環境負荷を定量的に評価し、よりSustainableな方法を追究する。例えば、CO₂の排出削減という課題では、目の前の使用段階におけるCO₂排出量だけでなく、製品や技術のライフサイクル全体での排出量を算出し、どの方法がCO₂の排出量が少なくなるかを考える。

「かばんの中でも温暖化?!」

教育用LCAソフト「かばんの中でも温暖化?!」は、身近な製品のライフサイクルを通して、自らの日常の生活や行動が、自分の見えない部分で地球温暖化と密接につながっていることに気づき、実感するとともに、温暖化防止のために自らができる具体的な行動が考えられるように設計され、開発された。

このソフトは、生徒のかばんの中に入っている様々な持ち物(教科書・ノートや筆記用具、携帯電話等)の種類・個数・使用期間を入力することで、1年あたりのかばん全体のライフサイクルCO₂排出量(LCCO₂)が算出でき、数字とグラフで表示されるようにつくられている。

また、元のかばんと改善後のかばんの2つが用意されており、かばんの中身の変更や使用期間の改善でLCCO₂をどの程度減らせるか比較できるようになっている。

授業全体の流れは、図1の①～⑥のようになる。導入部はプレゼンテーションソフトを用いて、①地球温暖化の問題を学習し、②携帯電話の事例を用いてLCAの考え方に気づかせる。続いて展開部で、LCAソフトの実習となり、次のように進められる。

③まず、ソフトを説明し、持ち物のワークシートへの記入をさせる。かばんの中に入っている

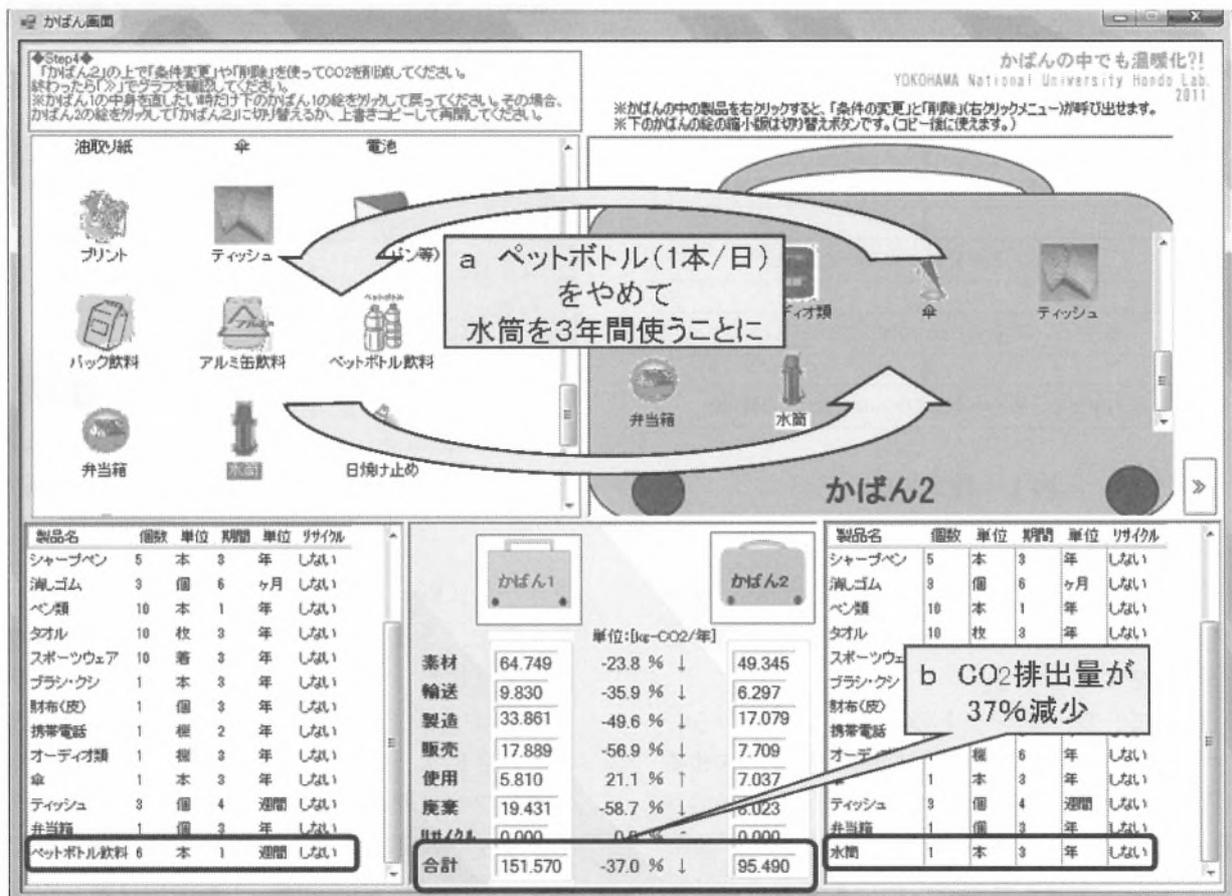


図4 削減シミュレーション後の画面

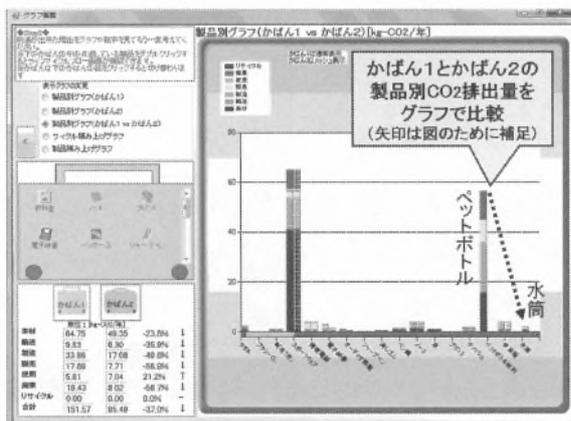


図5 グラフ画面

15%とした。この時も適宜グラフ画面やライフサイクルフロー画面を活用して、何が、あるいはどの段階が、CO₂削減に貢献したかを読みとらせる。ただし、無理をせずに、実行可能な範囲でやることを指示した。

削減シミュレーションが一通り終わったところで、結果を共有した。挙手で削減率が高かつ

た生徒を確認していく場面がクラスで一番盛り上がる瞬間である。削減率が高かった生徒には、何が効果的であったかを発表させ、その行動の実現可能性を確認した。

⑥まとめとして、ライフサイクル思考とそれに基づく解決行動の再認識のため、ペットボトルを水筒に持ち替えることを例に、グラフやライフサイクルフローを用いて説明した。

図5では、図4のCO₂排出量37%削減の大きな要因が、毎日買っていたペットボトルをやめ、水筒に変えたことであることが分かる。ペットボトル飲料は、容器に多くのエネルギーが割かれていることぐらい分かっているが、リサイクルすれば問題解決という考え方を持っている生徒もいるようである。しかし、図5のグラフで分かるように、このかばんの中では、ペットボトルそのものが大きなCO₂排出源である。これは、原料の原油が長いプロセスを経て製品となるからで、ライフサイクルフロー画面を見ることで、生徒はライフサイクル思考の大切さに気

づくことになる。実践後に、「今日からやってみよう！」との声を後に教室を去った生徒もいた。

LC Aソフトを利用するにあたって

このソフトは、ライフサイクル思考を持つことで、通学かばんという毎日使用する身近なものから、地球温暖化の防止につながるものが体感できる優れたものである。Ver. 2になって、操作性やデータの信頼性が向上し、まだ改善の余地は残されているものの、だいぶ使いやすくなった。ぜひ、環境問題の締めの授業等にご活用いただきたい。

これまで、このソフトは、アプリケーションをPC教室のサーバーにインストールして使ってきた。Ver. 2からは、USBメモリーに収められ、生徒機本体に差して使えるようになった。2012年頭現在、本藤研究室では、これをWeb上から使えるようにする準備を進めている。この体制が整えば、インターネット環境さえあれば、どこでもこのソフトが使えるようになる。早急の実現を期待したい。

Web化完成も含め、単体での利用等の情報は、横浜国立大学大学院環境情報研究院本藤研究室(<http://www.hondo.ynu.ac.jp/>)へ、お問い合わせいただきたい。

地理教育にライフサイクル思考を

循環型社会への転換が求められているが、これまでの環境問題を扱う多くの場面では、現象面の把握と後始末(リサイクル)に視点が置かれてきている。物質の循環を考えた時に、地球からなるべく資源を持ち出さずに循環させることが基本となる。この点では、このソフトは、原料調達から輸送・製造を含めたモノのライフサイクルという発想でつくられており、生徒に欠落している使用の前段階の問題点を気づかせてくれる。

一方、地理教育では、地名物産の地理からの脱却が図られてきたが、2013年度から使用される新しい教科書では、内容もボリュームアップしそうで、再び地名物産の地理への回帰が懸念される。このような状況下で、地理教育とライフサイクル思考について、栗島⁴⁾は、「循環型社会と地理学」と題して、地理教育の中で環境問題を取り上げる場合のライフサイクルでのマ

テリアルフローの視点の重要性について指摘している。さらに、栗島⁵⁾は、「どこでどの資源が産出される」式のいわゆる物産地理ではなく、製品の一生(ライフサイクル)をたどることで資源・エネルギー問題を十分に理解でき、学習指導要領にも応えられるとしている。

携帯電話のライフサイクルフロー画面(図3)の事例でも分かるように、現代の製品は、世界中からパーツが集められてできている。また、フードマイレージやヴァーチャルウォーターのように、工業製品に限らず環境に対する負荷が注目されている。原子力発電は、CO₂を排出しないことを理由としてPRされてきたが、これは発電の段階だけのことで、ライフサイクル思考で考えれば、CO₂どころか事故時の放射性物質の拡散、高レベル廃棄物処理等環境に対する負荷は大きく、Sustainableでないことは明らかである。

地理教育は、得意分野である分布などの空間的事象を、ただ断片的にとらえるのではなく、ライフサイクル思考のようにモノとモノを連携させて考えることによって、Sustainableな社会創りに貢献できるのではないか。

参考文献

- 1) 本藤祐樹、平山世志衣、中島光太、山田俊介、福原一朗(2008):環境教育におけるライフサイクル思考の利用—持続可能な消費にむけたミッシング・リンクの可視化と再生、日本LCA学会誌、4 (3)、pp. 279-291
- 2) 根元一幸(2009):高校における「かばんの中でも温暖化?!」の実践、日本LCA学会誌、5 (3)、pp. 344-351
- 3) 天野雄太、平山世志衣、本藤祐樹(2012):教育用LCAソフトウェア「かばんの中でも温暖化?! Ver. 2」の開発、日本LCA学会誌、8 (1)、pp. 55-65
- 4) 栗島英明(2008):循環型社会と地理学—ライフサイクルでモノの流れを考える、地理月報、507、二宮書店、pp. 1-3
- 5) 栗島英明(2010):資源・エネルギーの供給リスクとリサイクル、歴史と地理、638、山川出版社、pp. 13-20

夏季野外調査報告

新潟県の地域性の考察

伊賀康博（県立小田原城北工業高等学校定時制）

はじめに

2011年度の夏季地理野外調査は、「新潟県のご地域性の考察」というテーマで、8月22日(月)～24日(水)に行なわれた。

主な見学地は、

22日：新潟港〈環日本海の交易〉

23日：新潟県立環境と人間ふれあい館、
旧昭和電工鹿瀬工場、鹿瀬ダム
〈越後平野の自然と新潟水俣病〉

24日：燕市産業史料館、磨き屋一番館
〈燕市の地場産業〉

信濃川大河津分水路資料館、
石油記念館(出雲崎町)

であり、一日毎のテーマが明確な巡検であった。

1. 朱鷺メッセ

午前11時、新潟駅南口に集合ののち、最初に訪れたのは、信濃川の河口近くの「朱鷺メッセ」。朱鷺メッセとは、日本海側の国際交流・経済産業振興の拠点を造ろうと「万代島地区再開発事業」によって整備された一帯のことで、2003(平成15)年5月に全面開業した。「万代島ビル」と、「新潟コンベンションセンター」(国際展示場・国際会議場)の2つの施設が中心となっている。

私たちは、まず万代島ビル31階の展望室へ向かい信濃川の河口に広がる新潟の町を俯瞰した。当日は佐渡島や粟島もかすかに見ることができた。この展望室は誰でも無料で利用でき、地理の教員には大変ありがたい施設である。現在この施設命名権を栗山製菓が取得し「Befco ばかうけ展望室」と呼ばれている。しかし2012(平成24)年3月31日で契約が切れるため、その後の名称は未定とのことだった。

集合時間に余裕があったので、新潟フェリーターミナルへ足を伸ばしてみた。ちょうど佐渡行き便の乗船が始まったタイミングだったようだ。案内表示にはロシア語、中国語、ハンガール文字なども用いられており、環日本海の国際港であることを実感した。



写真1 展望室から俯瞰した新潟市内



写真2 「ばかうけ」とは何というふざけた名前！と思われたかもしれないが、このせんべいのキャラクターはおなじみ？

2. 新潟港

(1)新潟港の概要

朱鷺メッセをあとにし、新潟港湾事務所新潟港全般にわたる説明を受けた。

新潟港は、古くから信濃川河口に開かれた新潟西港と、1969(昭和44)年に開港した新潟東港の総称である。新潟港(西港)は歴史の授業で、江戸時代の西廻り航路の寄港地、あるいは日米修好通商条約の開港地などでとりあげることが多いのではないだろうか。昭和初期には満州との航路が開かれ、東京から満州への最短ルートとして、新潟港は大いに利用され発展した。しかし第2次世界大戦や新潟地震で壊滅的な被害

を受けるが、ほどなく復旧、設備の拡充をとげ、新潟港は、1967(昭和42)年に「特定重要港湾」に日本海側で初の指定を受け、1995(平成7)年には「中核国際港湾」の8港のうちの一つに位置づけられることとなった(他は、苫小牧港、仙台塩釜港、茨城港、清水港、広島港、志布志港、那覇港である)。なお、「特定重要港湾」は2011年4月1日より「国際拠点港湾」と名称が変更された。

新潟港の特徴は、何といてもその位置にある。日本海を挟んで対岸はロシア・北朝鮮・韓国、そのまま南下すれば中国の上海、台湾なども結ばれる。国内での関係を考えても、高速道路網の整備により、東北地方・北関東などからは首都圏を経由するよりも新潟港の方が距離は短く時間・輸送費が節約できる。

「・・・こういった地理的優位性をPRして新潟港はさらなる発展をめざしている」という点を強調されたが、地方の港湾は輸送船の便数が限られているため、行き先によっては、1便を逃すと1週間待ちなどということもあり、結局コストがかかってしまうため、それを避けるためには京浜地区をめざすこととなる・・・という動きもあり、こればかりは地方ではどうにもならない部分なのかもしれない。また、冬の新潟=豪雪というイメージもあり、果たして通年での稼働は可能なのか?と疑問に思い、それと同時によく授業で扱う「スウェーデンの冬の鉄鉱石の輸送経路」の話が頭に浮かんでしまった。たぶんそれは私だけではないだろう。

近年の新潟港は、釜山港との定期航路を充実させ(釜山へ向かうコンテナ船は週に11便)、釜山港でのトランシップ(積み替え)の貨物輸送に主眼を置いていた。リーマンショック以降、貨物取扱量は減少したが、その中であって、韓国よりも中国との貿易量が年々増加する傾向にある。また今年の3月11日以降は、震災により仙台港が使えなくなり、生活物資は新潟港を経由し陸路で仙台方面に輸送する形をとったため、にわかには取扱量が増加したという。

(2)新潟西港

もとのからの新潟港のことであるが、1969(昭和44)年に新潟東港が開港したため新潟西港と呼ばれるようになった。新潟の市街地に近く、港

と町は互いに発展を支えてきたといえる。

東港の完成により、大型コンテナ船などの国際間の物流の拠点は東港に移り、旅客中心の港湾となったように思われるが、一般の貨物輸送、水産物の水揚げなどは従来通り行なわれている。定期旅客航路としては、佐渡島の両津を結ぶ佐渡汽船と、北海道や関西とを結ぶ新日本海フェリーの発着場所となっている。

以前、この港のことが大いに話題になったことがある。北朝鮮の元山と日本とを結ぶ「貨客船：万景峰号」の日本の寄港地が新潟西港だったからだ(北朝鮮のミサイル発射、地下核実験の成功報道などにより、2006(平成18)年以来北朝鮮のすべての船舶に対し、日本国は入港禁止としている)。今は静かな佇まいの港だが、万景峰号入港の際には、歓迎する人々、入港反対を叫ぶ人々で、騒々しかったとのことだった。

河口を利用した港は水深を確保するために、常に川底の土砂の浚渫という課題が存在する。浚渫費用の大半は国の予算で賄われるが、戦争中の機雷の存在の可能性がある(米軍が落としたとする数と日本が処理した数の差がある)ため、金属反応を見ながらの作業なので、そう簡単なものではないようだ。



写真3 新潟港湾事務所屋上から見た新潟西港、万代島ビル

(3)新潟東港

続いて向かったのは新潟東港にあるコンテナ埠頭。東港といっても西港からバスで30分ほど移動した新潟市の東隣の聖籠町にあり、信濃川の河口に立地した西港とは異なり、砂浜を掘り込んで人工的に造られた港湾施設である。そのため港の周辺には、広大な敷地の、商品保管ス

ペースが数多く設けられていた。

新潟港のコンテナの取扱量は国内12位(2010年)で、京浜・阪神・中京・九州の各工業地帯の港湾を除くと、清水、苫小牧、広島の次に新潟港が続いている。

コンテナ埠頭には、中国・韓国の企業名の入ったコンテナが数多く並び、新潟港の貿易相手の大半がどこであるかは明らかであった。構内では船への積み降ろしのためのガントリークレーン、移動・積上げのためのストラドルキャリアなどが所狭しと稼働していた。

その後は広大な東港エリアをバスで移動し、製紙会社のチップヤードなどを車内から見学した。



写真4 コンテナの移送に活躍する
ストラドルキャリア

1日目は、新潟市内の「新潟会館」に宿泊した。夕食は各自で、という日程であったため、それぞれ「夜の巡検」に出発した。

3. 新潟県立環境と人間のふれあい館

—新潟水俣病資料館—

2日目は、市内北区の福島潟の畔にある「新潟県立環境と人間のふれあい館」にて、新潟水俣病に関する研修を行なった。この施設は1階部分に越後平野の地図(ガラス製の床の下にあり、空中から俯瞰したように見える)が置かれ、新潟の地形、地名(新潟水俣病関連の地名などが主)などが理解しやすいように工夫されていた。また2階部分の大半が新潟水俣病に関する資料館となっており、水俣病の正しい理解のために設けられた施設であることがうかがえた。

私たちは館内研修室で新潟水俣病の語り部

で、自身が認定患者の山田サチ子さんの話を伺った。新潟水俣病＝阿賀野川流域・昭和電工・有機水銀・・・などという断片的な知識しか私たちは持ちあわせていないが、関係者の生の声を聞くことによって、公害に関わる複雑で多様な面を知ることができた。公害病患者に認定して欲しいと手を挙げることの勇気、公害病認定患者ということ親子の間でも隠していたという悲しい事実、地元の水産業を守るために村全体で病気を隠そうとしていた行為など、大変重く考えさせられる内容であった。また、当施設が「環境と人間・・・」と命名され、新潟水俣病はサブタイトルのようにになっているのも、そういった複雑な背景が存在していたためであった。



写真5 山田さんの話を伺う

「環境と人間のふれあい館」の近くに福島潟の自然を紹介する施設「水の駅：ビュー福島潟」があった。地上7階建、平野の中にあって大変目立つ建造物で、昼食の後、バスの出発までの間に400円を支払い、高いところから福島潟、越後平野を俯瞰することができた。



写真6 外観が大変ユニークな「ビュー福島潟」

4. 昭和電工鹿瀬工場跡へ

午後は、新潟水俣病の原因物質であるメチル水銀を流していた旧昭和電工鹿瀬工場へと、阿賀野川上流部をめざした。磐越道を利用する予定であったが、バスの調子が悪く高速道路を降り一般道を進み、途中のドライブインでバスを乗り換える事態となった。しかしそれが幸いし？新潟県の酪農の発祥の地、というより安田ヨーグルトで有名な、旧安田村付近を通ったり、阿賀野川の右岸を上流方向に向かったために、7月末の大水害の傷跡をしっかりと目にしたりと、かえって内容が充実？することとなった。

阿賀町にある鹿瀬駅。現在は磐越西線の小さな駅だが、かつては昭和電工鹿瀬工場への通勤客で大いに賑わったという。バスの車内より当時の工場の建物を、バスを下車しメチル水銀が流れ出た排水口を見学した。昭和電工側は公害の訴えに対し「排水口近い地域の住民にも患者がいて良いはずなのに、なぜ下流部にだけ患者が多いのか？」と反論したようだが、阿賀野川の水量は豊富で、その勢いで下流部に汚染物質が運ばれたのだと、容易に想像することができた。

バスの中では、同じ公害の被害者でも、いち早く被害者であることを表明し裁判で争った第1次訴訟原告団と、その結果を受けて裁判を起こしたとされる第2次訴訟原告団とは反目しあっていること、そのため熊本では水俣病の合同慰霊祭を行なっているが、新潟ではそのようなことは行なわれていないなどの話を伺い、公害問題のもつ複雑な面をさらに知ることができた。

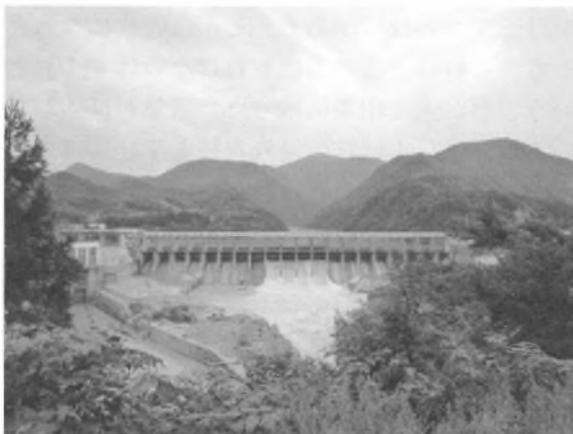


写真7 流量豊富な阿賀野川の鹿瀬ダム

2日目の宿泊地は「弥彦温泉」。北陸道の「三条燕インターチェンジ」を降りて一般道で弥彦に向かったが、このインターチェンジの近くに上越新幹線の「燕三条駅」があった。このインターチェンジと新幹線の駅の命名は、三条市と燕市とで色々もめた結果なのだろうということは想像に難くない。

「弥彦温泉」は3月11日以降、湯が出なくなってしまうとのこと、こんなところにも大地震の影響が及んでいた。

5. 燕市産業史料館

3日目は、燕市の地場産業を中心とした巡検を行なった。

「洋食器の燕」は「刃物の関」などと並んで地場産業の話題の際には必ずといっていいほど出てくる街だが、さて、洋食器は洋食が広まった明治時代以降のことであり、それ以前の燕は何をしていたのだろうかなどという、勉強不足も甚だしい状態で、燕市産業史料館に向かった。

燕は江戸時代には和釘、刀の鏝などの生産で知られたが、明治時代になり廃刀令が出され、刀の鏝の需要は減り、その精巧な技術が煙管作りなどに発展していった。こういった金属加工の技術(伸銅、圧延、彫金、研磨、メッキなど)が大正時代以降の洋食器の生産につながっていったという。

戦後は学校給食の普及とともに洋食器の需要が伸びたが、現在は外国から安い輸入品が出回り、洋食器生産は苦戦。デザイン性を高め、精巧な技術・丁寧な仕事を売りにして、新たな方向性を探っている

現在、燕市には3,000軒近くの工場があり、製造から出荷まで、市の人口85,000人のうち約20,000人が製造業に従事している。そのほとんどが中小企業で、「社長が一番多い街」などとも言われているようだ。

6. 燕市磨き屋一番館

近年、諸外国の工業化が進み、安価な商品が出回るようになり、燕市の伝統ある産業も衰退しかねない状況になっている。後継者がいなければ、燕で培ってきた伝統ある高い技術も消滅、あるいは外国に流出してしまう。そんな思いから、高度な技術の継承、後継者の育成を目的と

した施設が「磨き屋一番館」である。

現在、鏡面磨きの技術は、i-Phoneやジェット機の翼などに活かされている。つまり伝統技術が最先端技術を支えているのだ。燕の磨き技術は世界一であり注文が絶えないという。



写真8 磨き職人（マイスター）の技を間近に見学する

7. 信濃川大河津資料館

米どころ越後平野は、信濃川の恩恵を受けて発展してきたものの、ひとたび大雨ともなれば甚大な災害を受けてしまう。江戸時代より分水建設は考えられていたが、明治時代に入ってようやく許可が下り、当時の最新技術を駆使し（東洋一の大工事と称された）放水路は完成した。

これにより信濃川の新潟市内への流量は調整できるようになったが、一定量を超えると厳しく、実際2011(平成23)年7月の豪雨でも、大きな被害を出してしまった。現在は可動堰の改修工事を行なっている。



写真9 大河津資料館屋上で説明を聞く

8. 出雲崎

巡検の最後は、日本海に面した出雲崎で昼食ののち、食事場所に併設されている「天領出雲崎時代館」「石油記念館」を訪れた。江戸時代の出雲崎は北前船によって上方や江戸などと同じ、物資や情報が入手できていたのだが、私たちはどうしても道路や鉄道など陸路でのつながりのみを意識してしまい、海洋による結びつきというのは1日目の新潟港同様、なかなかイメージしづらいものだ。

その出雲崎で、古代から採掘されていた「燃える水」を事業化したのが明治20年代、日本石油(現、日石三菱)の前身である。しかし出雲崎での石油の産出は1894(明治27)年をピークに減少してしまう。石油記念館内には採掘方法の変遷などが、実際の道具とともに解説されていた。また屋外の石油産業発祥地記念公園(県文化財指定でアメリカのドレーク記念公園と姉妹提携)には石油開発をはじめた当時を彷彿とさせるモニュメントなどが展示されていた。

おわりに

今回の野外調査に参加し、新潟県の現状を学んだ中で、日本が今後どう行った方向に進んでいくのか、いろいろと考えさせられた。

現代は、皆が同じ方向に向かって前進していくのではなく、その地域ごとの異なった自然環境・伝統などの人々の営み、その土地ならではの特性を生かしながら地域の発展をめざしていくべきなのだろう。そのためにも、地域を見る目を養う「地理」の果たす役割は大きいものがあるといえる。

「磨き屋一番館」での説明の中の「ここにはオンリーワンの技術がある。どんな時代になろうとも、これはどこの国にも負けないはず！」という言葉が大変印象に残った。景気が低迷している現在、日本伝統の優れた技を学び繋げていく志の高い若者が求められている。

私ごとだが、現在私は「工業高校」に勤務している。「オンリーワンの技術」を継承する可能性のある生徒たちと接しているわけだ。社会科の私には「技術」を教えることはできないが、彼らに「学ぶ心」は教えられるかもしれない。多少強引だが、今回の巡検のまとめとしたい。

秋季野外調査報告

東京の土地利用と水と新たな可能性について —秋季野外調査の覚書—

井上 明日香（県立元石川高等学校）

はじめに

今回、野外調査に初めて参加させていただいた。2011年12月9日(金)に行われた本調査は、参加者は全員で20名(午後から参加のものを含む)、移動・行程は以下のとおりである。なお、当日の東海道線の遅れのため、午前中は当初の予定から変更になった部分がある。

【行程】

かながわ県民センター（集合）→品川宿→品川駅（昼食）→芝浦水再生センター→パソナ屋内農園→かながわ県民センター（解散）

1. 東海道を歩く

かながわ県民センターに集合し、京急青物横丁駅までバスで移動した。電車の遅れに加え、雨が降る悪天候だったため、環境としては悪かった。「ガイドしながわ」の方がガイドをしてくださった。旧東海道は、道幅なども当時のように再現されている。

海雲寺(写真1)は曹洞宗の寺院で、堂内にはガラス絵があり、境内には「平蔵地蔵」もある。

平蔵地蔵は、江戸時代後期、鈴木森刑場の番人であった乞食の平蔵が財布を拾って落とし主に届けたところ、それを知った仲間の乞食が平蔵を小屋から追い出したために亡くなったという出来事があり、落とし主であった武士が平蔵を供養するために建てたものである。



写真1 海雲寺

品川寺は、品川区で最古の寺院であり、平安時代前期の創建である。江戸の主要街道の入り口6か所に造立された「江戸六地藏」や「洋行帰りの鐘」がある。この鐘は1867年のパリ万博で出品され、その後行方不明になっていたが、ジュネーブのアリアナ博物館から返還された。京急青物横丁駅の駅前通りがジュネーブ平和通りと名付けられているのはこのためである。

品川神社は、源頼朝が海上交通安全と祈願成就の守護神として創建され、東海七福神の一つとして知られ、「大黒天」が祭られている。周辺よりかなり高い土地に創建されていることが分かる(写真2は品川神社からの眺望である)。また、裏手には明治維新後に自由民権運動を進めた板垣退助の墓があり、傍らに「板垣死すとも自由は死せず」の碑(佐藤栄作書)を確認できた。



写真2 品川神社からの眺望

他にも荏原神社などを訪れたが、予定が変更され、ゆっくりと見学などができなかったのが残念である。またの機会に訪ねたい。

2. 芝浦水再生センター

午後からは、芝浦水再生センターを見学させていただいた。沈殿池などの見学に加え、丁寧に説明していただいた。この施設は以前、下水処理場と呼んでいたが、現在は積極的な意味を込めて、水再生センターと呼んでいる。

下水道処理の途中で出される汚泥は、燃やすと灰になるが、そこからレンガなどを作る工夫をしていたが、東日本大震災に伴う福島原発事故の影響を受け、放射能の濃縮の恐れも懸念されている。においが外へ漏れださない工夫などもされており、沈殿池の上部には公園などが作られている。センター周辺は緑化している場所がないため、周辺住民にも受け入れられているようである。また、停電などには耐えうる構造となっているなど多少の非常事態が想定されている。

3. パソナ屋内農園

パソナ(本社:千代田区)は人材派遣会社であるが、働く人の健康・農業・エコのコンセプトから屋内での農業など様々な取り組みを行っている。壁面緑化は近年では見られるようになってきたが、屋内で農業を行っている例は少ないであろう(写真3は屋内農園の一例である)。



写真3 屋内農園の一例(パソナ社屋内)

屋内農園は、屋外のように自然の影響を受けることはないため、照明の調節、温湿度の管理などを行って、環境を自然に近づけている。そのため、季節の野菜とは時期が外れたものを栽培できるというメリットもある。土壌が乾きやすいため水を吹きつける、養液を用いるなどの工夫がなされている。実際に、トウモロコシ、きゅうり、かぼちゃ、トマトなど多くの野菜類やコマが栽培されているが、建物の構造上、背が高くなる種類のもの、根を深くまで張ってしまうものは育てられない。また、そこで人が作

業する以上、虫類がいる環境にしないように工夫されているため、受粉などは人の手で行わねばならないこと、人体に影響を与える可能性があるために化学肥料などが使えないという問題点もある。また、収益性は良くないため、屋内農業の限界を感じた部分もあるが、今後、改良されていくことを期待したい。

おわりに

筆者は、今年度新採用の教員である。普段、フィールドワークには興味を持っているが、機会が思うように得られない。今回のような貴重な機会を与えていただき、地域をみる視点などを今まで以上に意識できたように思う。今回の野外調査で得られたことを今後の自分自身の教材研究や授業に活かしていきたいと感じた。案内などをしていただいた「ガイドしながわ」のみなさん、芝浦水再生センター、パソナの各担当者のみなさん、そして、今回の野外調査を企画・運営してくださった先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員会報告

横浜市金沢区長浜・富岡および野島巡検

井上達也（県立釜利谷高等学校）

はじめに

地域研究委員会では、昨年地理分科会・各委員の協力を得て、「変わりゆく神奈川県」を発行した。出版の目的は、21世紀以降も、日々変化する神奈川県の状況を記録することであった。

本書発行後も、神奈川県内は変化が続いている。その状況については、地域研究委員会のホームページで、順次伝えていく予定である。だが、変化を追う一方で、神奈川の景観を形作る、その基盤となる歴史的要因を探ることもまた重要である。昨年8月、地域研究委員会では、磯子工業（定時制）の大胡先生の案内で、金沢区長浜・富岡および野島巡検を実施した。今回の巡検では、埋立てが進む以前の海岸線の様子、戦前の日本海軍の基地跡、伊藤博文の別邸などを訪ねた。かつて、風光明媚な海岸線、海軍の航空機開発の拠点など、横浜の戦前から昭和40年代頃までに思いを馳せつつ、今日の横浜の景観や産業とのつながりを訪ね歩いた。

1. かつての海岸線を行く

最初に訪れたのは、慶珊寺（富岡東四丁目）である。隣接する金沢シーサイドタウンには、高層の団地が建ち並んでいるが、昭和40年代の埋立て以前は、寺のすぐ目の前が海岸線であった。また、慶珊寺の北側にある、長昌寺の辺りは、かつての漁村で、冬場には海苔を干す風景が見られた。

作家の直木三十五は風光明媚なこの富岡の地を気に入り、慶珊寺裏に邸宅を構えた。邸宅は老朽化したため、昨年6月に残念ながら取り壊された。なお、直木三十五の記念碑が、慶珊寺山門に向かって左手にあり、故人の功績を偲んでいる。

山門の右手には「孫文先生上陸之地」の碑がある。1913年、第2革命に失敗した孫文が、日本に亡命した際、密かに上陸したのが富岡であったことを記念し、碑がたてられた。

続けて長昌寺付近の、かつての漁村の跡を訪ねた。今ではごく普通の住宅地で、説明がなければ見過ごしてしまうところである。「ここは漁

業権を放棄した元漁師さんの経営するマンション」、「半農半漁の名残の広い敷地」など、説明を受けて初めて漁師の暮らしがあったことが分かる。ちなみに、大胡先生のご実家はこのあたりで、子どもの頃は海が遊び場だったそうだ。



写真1 直木三十五邸宅跡



写真2 孫文上陸之地の碑

2. 海軍基地の跡地利用

県立高校再編で、富岡高校と統合された旧県立東金沢高校（現・金沢特別支援学校、住宅地）の西側に広がる神奈川県警第一機動隊、日本飛行機杉田製作所、富岡総合公園は、かつての横浜海軍航空隊跡である。

横浜海軍航空隊は、日本初の飛行艇部隊であり、大戦中は、南洋戦線をはじめ、太平洋の全域で活動した。富岡運動公園内には今も、海軍基地当時の、正門の門柱が残っている。戦後、戦死者の慰霊のために浜空神社がここに建てられたが、それも今はなく、神社の記念碑のみある。海軍の「軍都」横須賀に隣接する金沢区は、かつては軍関連の施設、工場が多かったが、戦後GHQに接收された後に民間に払い下げられ、現在は工場や学校、団地、公園などの用地として使用されている。

次に、金沢区内を一気に南下し野島公園に向かった。



写真3 横浜海軍航空隊記念碑

3. 野島 夕照の今

江戸時代、金沢八景はその名の通り景勝の地として知られた。東海道の保土ヶ谷宿から南に下り、金沢八景を見物した後、鎌倉、江の島を経て藤沢宿に抜ける道は、江戸の庶民の定番であった。埋立てられる昭和40年代以前、穏やかな気候の金沢区は、東京の行楽地・保養地として知られた。私も子どもの時、親に連れられ、海水浴や潮干狩りを楽しんだ記憶がある。

伊藤博文は、この地を愛し、大日本帝国憲法の草案を金沢八景の旅館で書き、1898年には別邸を野島に建てた。伊藤の別邸は横浜市が復元し、2009年10月から一般に公開されている。皇族や明治の元勳等も訪問したこの建物は、日本の歴史のみならず、別荘地であった金沢の雰囲気をも今に伝える貴重な建物といえる。

野島公園内では、太平洋戦争末期に建設された掩体壕の遺構を見ることが出来る。掩体壕とは、旧海軍が建設した航空機の待避壕である。

野島に隣接する日産追浜工場は、旧横須賀海軍航空隊基地跡に建つ。大戦末期、この基地の航空機100機あまりを空襲から守るために、1945年3月から6月末までのわずかな期間に、約260メートルのトンネルが建設された。敗戦により実際使われることは無かったとのことだが、掩体壕としては、当時最大級のものであり、市内では日吉の旧海軍壕などと共に、戦争を学べる遺跡として重要である。

4. 長浜検疫所と野口英世博士

今回の巡検の最後に、野口英世博士ゆかりの旧長浜検疫所細菌検査室を訪ねた。検疫所は、横浜港に來航する船舶からの伝染病を未然に防ぐための施設である。長浜ホールのパンフレットによれば1899年、当時22才の野口博士は検疫医官補として5ヶ月間勤務し、ペスト菌患者発見にも功績を残したとのこと。野口博士の勤務した建物自体は、関東大震災で倒壊したが、その翌年再建された建物が現在保存、公開されている。なお、長浜ホールは、横浜検疫所長浜措置場の事務棟の外観を復元したもので、内部には音楽ホール、練習室などがあり市民に利用されている。



写真4 旧長浜検疫所細菌検査室

おわりに

金沢区には、この他にも大日本帝国憲法の草案を記念した「憲法草創之処」の碑、言わずと知れた金沢文庫、称名寺もある。また、人工島の八景島、人工海浜の海の公園など、見所も多い。生徒を連れて、金沢区の歴史を軸に、鎌倉時代から今に至る地理巡検を計画するのも良いのでは？と今回のルートを歩いてみて感じた。

委員会報告

中郡が日本の落花生栽培の発祥地 —「相州落花生」(大磯町・二宮町・秦野市)—
能勢博之(県立鶴嶺高等学校)

1. 秦野市が県内最大の生産地

秦野市や二宮町など旧中郡とその一帯は、古くから落花生の産地として知られ、「相州落花生」として県の「新かながわの名産100選」に選ばれている。

日本における落花生の都道府県別の生産量(2009年)は、千葉県15,300トン、茨城県2,880トンとこの2県で全国生産量の8割を占めているが、神奈川県は458トンで全国3位となっている(財団法人全国落花生協会HPによる)。県内の主な産地は、秦野市が県内生産量の半分弱を占め、次に中井町、平塚市、伊勢原市と続く(2005年)。

この付近は、海岸沿いは砂混じりの土壌、秦野盆地は火山灰が堆積した土壌で、水はけが良く通気性がよいことが落花生の栽培に適している。落花生の流通は、他の作物に比べて農協を経由する割合が低く、栽培農家から毎年同じ加工業者や仲買人に直接買われていくことが多い。

2. 日本の落花生栽培は旧中郡一帯から

日本で最初に落花生が栽培されたのは、現在の大磯町西部にあたる(旧)国府村であった。1871(明治4)年に国府村の渡辺慶次郎が、横浜を訪れた際に出された落花生が美味しくて、タネを持ち帰って栽培したという。当時の落花生は外国人が輸入して食べていたに過ぎず、日本人にはほとんど知られていなかった。落花生は

その名のとおり、花が咲いた後に花の基部から子房柄が伸び、やがて土の中に潜って土中で実をふくらませるが、当初は下に向かって伸びるのでてっきり栽培に失敗したと思ってしまったというエピソードが伝えられている。翌年には、現在の二宮町の二見庄兵衛も落花生の栽培を始めたといわれており、いずれにせよ大磯・二宮が日本の落花生栽培の発祥の地である。ちなみに、1874年になると政府がアメリカ合衆国から落花生のタネを輸入して各地に配布し始め、現在の主産地である千葉県では、1876年に神奈川県からタネを入手して栽培が始められた。

第二次世界大戦中、落花生は嗜好作物とされて、さつまいもなどへの転作が進んだ。戦後になって改めて栽培が再開されると、秦野市が主産地となった。秦野市では、かつてたばこや陸稲などと輪作をしていたが、今やたばこ栽培は姿を消してしまった。今日では、秦野市名古木などでは落花生掘りの観光農園もある。

3. 落花生の専門店が並ぶ

旧中郡一帯には、落花生を加工して莢いり殻つき落花生、塩落花生、砂糖豆、バターピーなどを製造している落花生の専門店が何軒も見られる。使用する原料豆も量的には千葉県産や中国産が多いが、品質のよい地元産の落花生を確保するため農家と契約している店もある。



写真1 7月の落花生、黄色い花が咲いている
(2008年撮影、自宅の家庭菜園にて)



写真2 収穫時の落花生 莢の部分は土中にある。根には根粒菌が共生している。
(2008年撮影、自宅の家庭菜園にて)

また9月末から10月上旬の収穫期には、掘りあげられた生の落花生が地元の直売所や八百屋などで売られている。生の落花生は塩ゆでにして食べるのが(神奈川に限らず)、産地ならではの食べ方である。この塩ゆで落花生が大好物という人も多く、地元スーパーでは冷凍の塩ゆで落花生が時おり売られることもある。「JAはだの」では、冷凍ゆで落花生を「うでピー」という名で特産物として売り出しており、イメージキャラクターも作られた。「うでピー」とは、ゆでることを秦野では「うでる」ということから命名されたものである。



写真5 大磯町の落花生専門店(2011年撮影)



写真3 二宮町の落花生専門店(2011年撮影)



写真4 二宮町の落花生専門店、看板の形も落花生の形である(2011年撮影)

地域研究委員会ホームページ
「変わりゆく神奈川県」

<<http://web.mac.com/kkft1992/>>

ホームページでは、写真がより大きくカラーでご覧いただけます。

地理分科会HP「地理の部屋」

<<http://www.kana-chiri.org/>>からもリンクしています。

委員会報告

「新地理演習帳」と「トライ地理20」の特色と活用のヒント

山本 敦（県立茅ヶ崎西浜高等学校）

教材委員会では、毎年「新地理演習帳」と「トライ地理20」の白地図を発行している。現在6人の委員がおり、年に数回会合をもち、これら白地図の改訂作業を行っている。ここ数年は統計の数値などの改訂作業を行ってきたが、今後新カリキュラム導入に際して、「新地理演習帳」の方は全面的な見直しを行う予定でいる。

今年度の活動は「トライ地理20」の統計資料の改訂、図面の修正を行った。

今回は「新地理演習帳」および「トライ地理20」の特色や他の白地図演習帳には見られない部分についての活用のヒントについて記してみたいと思う。

1. 「新地理演習帳」

【特色】

- * 高校のカリキュラムに合わせ、授業だけでなく、受験にも対応できる内容である。どの教科書にも対応できるよう、基本はオーソドックスな構成になっている。
- * サイズをA4とし、白地図をベースにしているので、各ページできるだけ大きな地図を使うようにした。
- * 地形図をたくさん使用した。神奈川県内の例をはじめ、典型的な地形の例の地形図を使用した。作業例のないものもあり、先生方が自由に作業課題を設定できる。
- * どの地域もくまなく扱うようにした。限られたページ数の中で、全体のバランスを考えながら各地域を配分した。
- * 各地域とも地勢、農牧業、鉱工業、宗教や民族、国と都市という構成になっている。問題の解答欄はできるだけ白地図内にいれるようにして地図での位置関係が把握しやすいようにした。

【活用のヒント】

- * P.16 第15図B 中国の行政区別GDP成長の著しい中国であるが、地域格差も顕著である。作業を通して、経済格差と人の移動との関係を見てもよいかもしれない。
- * P.20 第19図 東南アジア図A, 図B

A S E A N加盟国や旧宗主国（第二次世界大戦前の支配国）などを把握することは、世界史や政治・経済の部分との関連で有効であると思われる。

- * P.22 第21図A 南アジアの宗教と言語
南アジアがイギリスの植民地から独立する際に分離独立した国々の宗教分布と多様な言語との関連性を見ることができる。
- * P.24 第23図 西アジア・北アフリカの鉱工業
原油に関しては西アジアと北アフリカを一つの地図におさめた方が理解しやすい。原油の埋蔵量や日本の原油輸入先などをグラフの作成を通して理解することができる。
- * P.26 第25図 イスラム教の分布
宗教分布は1つの図にまとめて作業をすることが多いが、ここではイスラム教に限定しているので、分布状況がわかりやすい。パレスチナ問題とあわせて展開するのもよいのではないか。
- * P.33 第32図 ヨーロッパの国と都市
ヨーロッパの国と都市をE C→E Uへと発展する過程とからめて作業をするのが効果的かと思う。
- * P.34 第33図 ヨーロッパの言語と宗教
ヨーロッパの言語と宗教の関連性や例外などを2つの図で比較することができる。
- * P.35 第34図 ヨーロッパの外国人労働者
戦後の復興のために多くの外国人労働者を迎え入れたヨーロッパを理解するのに適した図。経済格差や失業率などと関連させた授業展開をしてもよいかもしれない。
- * P.38、39 第37図 ヨーロッパ中央部
ヨーロッパの河川交通を把握できる。工業発展と関連させるだけでなく、鉄道や高速道路網などを加えることにより、これら発達した通網がE Uの結びつきを高めていることを理解させるのもよい。
- * P.46 第44図 アメリカ合衆国とカナダの農牧業
単にアメリカの農牧業地域を作図するので

はなく、主要農畜産物の上位5州を着色させる作業。適地適作の農業形態がつかみやすくなっている。

- * P. 48、49 第46、47図 アメリカ合衆国とカナダの民族と行政区分

世界史の授業とも密接に関連できる。50州の位置を知ることができるだけでなく、歴史、民族、黒人やヒスパニックなど多民族国家、多文化主義のアメリカを理解するのに必要な部分であると思う。

- * P. 52 第50図 B 南アメリカの農業—高さによる作物のちがひ

赤道直下のアンデス地方の農作物の垂直分布を気候と関連させて見るのによい。

- * P. 55 第53図 オセアニア

ふだん見慣れた地図ではなく、東京からの距離を意識して表現した地図。距離感覚をつかむのによい。

からといって、すべてが易しい内容ではなく、最低限必要と思われる基本的なことがらは盛り込まれている。

- * 1枚完結。切り離して使える。
1枚のプリントとして好きなところから取組み、提出するときに切り離すことができる。

- * 問題は20問。
内容を精選し、時間的にも生徒が飽きずに取り組める量ということで、どの単元も20問で統一した。

- * 一般常識向けの内容である。
高校の教科書の内容や進度にとらわれることなく、教養としての地理的内容を取り扱っている。一般常識の試験対策にも使えると思う。

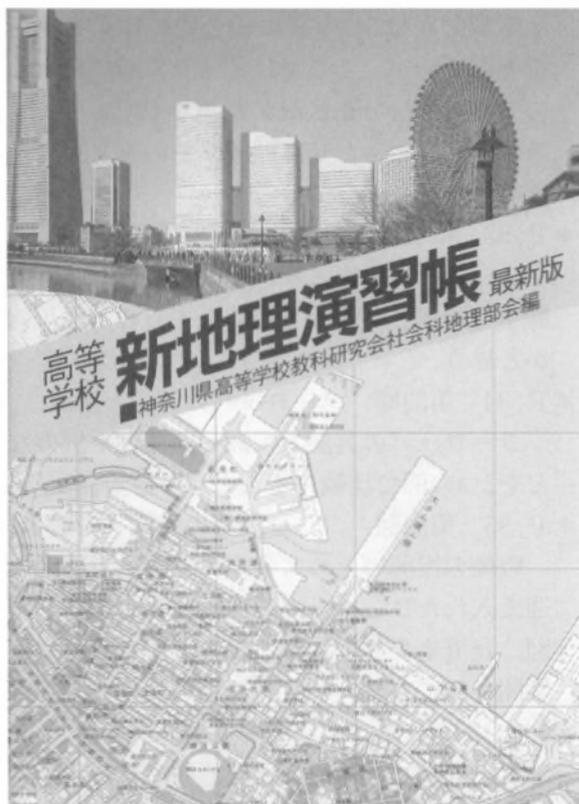
- * 世界だけでなく、日本や神奈川県についても扱った。高校では日本の内容をほとんど扱っていない。高校生ならば当然知っておきたい内容である。地元神奈川の地誌に関しても同様である。

- * 解答を導きだすヒントを設け工夫した。
ただ、漠然と地名とその位置を覚えるのではなく、ヒントが重要なキーワードになっている。クイズ感覚で解けるのもポイント。

【活用のヒント】

基本は地図帳を使えばできるものが多いので、小・中学校の復習として。休み中の宿題。自習の課題。ちょっとした余りの時間を使っての作業等、手元にあると便利ではないかと思う。演習帳を持つほどではないということであるならば、こちらを試ってみたい。

採用されている学校の生徒からはなかなかの好評を得ている。



2. 「トライ地理20」

【特色】

- * 受験を意識したものではなく、地理が苦手な生徒、好きでない生徒に対して、少しでも興味を持ってもらえるように作られている。だ



委員会報告

県下一斉テストの作問方針と2011年度の問題について

磯崎 厚 (県立厚木高等学校)

はじめに

2011年は、東日本大震災とそれに伴う原発事故の発生で、自然災害や防災、エネルギー問題への関心が高まった年であった。おもに教科書・資料集などの二次資料を手に教室で語ってきたできごとが、想像をはるかに超える現実として起こってしまったとき、体験や映像から得られる圧倒的な情報をどのように扱い伝えていけばよいのか、考えさせられる毎日だった。

今年度の県一斉テスト問題についても、例年通りの分野で作成することとしたが、テーマ問題の設定や各小問の作成段階で震災に関連する問いが検討されてきた。しかし、復旧が進まず放射能汚染も続くなか、さまざまな背景を持つ生徒たちに対して、何をどのように問うのが論点となった。体験を記憶に留め、後世に活かすためにも扱うべき題材ではあるが、結果として、震災を強く想起させるような事項を問うことは控えられた。

1. テーマ問題：環境問題(ヨーロッパ)

ヨーロッパの地図を用い、環境問題の各分野に関して総合的に扱った。また、注目を集める新エネルギーについても取り上げた。

問1：② フランスは発電量に占める原子力の割合が最も高い。日本の原子力産業との関係も強く、原発災害の報道ではフランスの原子力産業の名が見受けられた。問2：④ 高緯度地方では冬季の日照時間は短い。①アイスランドは大西洋中央海嶺に位置し火山活動が活発で、地熱発電は24%。水力発電は75% (2008年) ②干満差が平均8mのランス川河口を堰き止め、1963年に発電所を建設。③海上と陸上の各地で風力発電が行われる。風力発電設備容量上位3か国(2010年)は中国・アメリカ合衆国・ドイツ。問3：② ①ただし地中海沿岸付近などでは近年砂漠化が問題となっている。③ギリシャには熱帯林はみられない。④オゾンホールは南極付近にあらわれる。2011年には北極で初めて観測された。問4：① 問題文は北海油田に関するもの。1988年には爆発事故があり160名以上

が死亡。問5：③ 問6 [設問1] ② ①モーダルシフトとは輸送手段の転換のこと。大気汚染や交通渋滞の緩和等を目的に実施。[設問2] ① 年降水量2000mをこえる地域もあるが、森林は植林されたモミが中心。[設問3] ④ ライン川は流量の季節的変動が比較的少ない。問7：③ 酸性雨は経済活動の活発な地域に多く発生。問8：③ 1990年時点で比較的少なく2008年でさらに減少していることから。1990年時点で排出量が最も多く増加傾向にある①はアメリカ合衆国。急激に増加し2008年に4か国中首位となった②は工業化が著しい中国。1990年で最も低かったが増加しつつある④がインド。

2. 地誌(東南・南アジア)

東南アジアの経済活動を中心とした問題。

問1：ウ 問2：① 問3 [設問1] ① マレーシアの代表的作物は、かつては天然ゴム、後にアブラヤシ。[設問2] 緑の革命 1962年フィリピンに設立された国際稲研究所では、1966年に高収量品種 I R- 8が開発された。問4：④ インドネシアはイスラム教徒の人口が世界で最も多い。他の国は仏教を信仰する人の割合が高い。問5：② ①マレーシアより分離独立、③イギリス、④フランス 問6：③ ①は、経済発展のため日本を見習おうというマレーシアの政策、②は「刷新」を意味するベトナムの改革、④は「新しい村づくり」を意味する韓国の農漁村改革運動。問7：④ 問8 [設問1] ④ 日本の魚介類の品目別輸入額ではエビが最も多い(2010年)。[設問2] D インドネシアは地下資源が豊富。他国の対日輸出は電気機器が20%以上。

3. 地形図を利用した問題

新旧の地形図を用い、基本的な読図を中心にして、地域の歴史や産業などを考えさせる問題とした。地形図は1:50,000「十日町」。等高線の間隔は20m。

問1：北東 魚野川付近の標高は、水準点などから判断して南部は180m程度、北部は160m

程度。問2：C B・C間を通る300mの計曲線に着目。問3：④ 問4：④ 問5：② 大里は自然堤防上の集落であり、地形図上からは条里制は確認できない。③江戸時代に開発された新田集落で、他に「畑新田」「島新田」「山新田」などがみられる。問6：② ①斜面にみられるのは針葉樹林と広葉樹林。③鉄道が上を通る。④手前から川・市街地・駅の順。問7：① 扇状地の断面であり、中心が高くなる。問8：① 問9：米 田の記号などから判断。南魚沼市と周辺の市町は「魚沼産コシヒカリ」の産地で有名。問10：③

4. 民族と生活(東アジア)

日本にきた留学生の会話を通して、東アジア地域の民族と生活について問う問題。Aさんは2010年の万博開催地シャンハイ、Bさんはシルクロードが通る新疆ウイグル自治区、Cさんは大相撲の力士の出身国モンゴル、Dさんはかつて日本の植民地支配を受け、現在は日本で芸能人が活躍する韓国出身。

問1：④ 「一人っ子政策」により子どもの数は減少している。問2：② 人口の45%を占めるウイグル人はトルコ系でイスラム教を信仰する人が多い。問3：① タリム油田などが知られる。問4：③ 中国最大の民族は漢族である。2009年には大規模な騒乱事件がおこった。問5：③ 図に描かれている家はモンゴルのゲル。②は焼畑、③は遊牧、④はロマに関する説明。問6：D 韓国の伝統的な床暖房はオンドル。問7：② 中国の人口抑制策である「一人っ子政策」は1979年に始まった。③に近い増加率を示しながら、このころより増加率が減少した②が中国、依然として増加率の高い③がエチオピア、割合が常に低い④がイギリス。問8：イ 問9：③ ①は上海ガニ、②はケバブ、③はキムチ、④は遊牧民の食生活。問10：① チンリン山脈とハワイ川を結ぶ線は、年降水量1,000mmの線とおおむね一致し、畑作と稲作の境界となっている。

5. 産業と生活(北アメリカ)

アメリカ合衆国の各州を、統計などを用いて比較し、地域の産業の特徴を考えさせる問題。

問1 [設問1] カリフォルニア 一国に匹敵

するほどの経済規模を持つ。[設問2] ④ メキシコとの国境にあることからヒスパニックが多く、また先住民の保留地が存在する。なお、太平洋岸はアジア系住民、南部はアフリカ系住民が多い傾向にある。[設問3] ② サンフランシスコや福島県いわき市がほぼ同緯度。④はカナダとのおもな国境線。[設問4] ③ シリコンプレーンはテキサス州ダラスやフォートワースを中心とした平原地域 [設問5] ③ メサビ鉄山・アパラチア炭田などの資源を五大湖の水運で結びつけて工業が発展。ミシガン州デトロイトでは自動車産業が発達。①は東部の滝線都市、②は「合衆国のパンかご」カンザス州、③はヒューストンのあるテキサス州。[設問6] ② 原料となるトウモロコシの生産がさかんな地域。①産出ではカナダが有名、②・③は海洋に産する。[設問7] ④ トウモロコシは、豚の飼料として利用され、大豆と輪作されることが多い。これは商業的混合農業地域における典型的な作物の組合せである。問2：④ 綿花の栽培地は南部のコットンベルトと呼ばれる地域が中心であったが、近年は西部に広がっている。①小麦、②ばれいしょ、③たばこの分布。問3：① 問4：① アメリカ合衆国はNAFTA加盟国とのつながりが強い。

6. 自然環境(太平洋地域)

世界の自然環境に関し、ダーウィンの『ビーグル号航海記』をもとにした問題。2009年がダーウィン生誕200年だったため、やや旬を過ぎた感があった。

問1：ア フィヨルドは北海道にはみられない。問2：① イギリスは古期造山帯にあり、地震は少ない。問3：④ 石炭は古期造山帯、銅は新期造山帯の地域で多く産する。問4：④ オリーブ・オレンジは地中海性気候の代表的な作物。問5：② 寒流が流れる海岸付近は上昇気流が生じにくく降水が少なくなる。同様の砂漠としてナミブ砂漠が有名。問6：② 問7：④

図の中心は0度なので、赤道以南。問8：あ グレートバリアリーフを示す。問9：④ Iはヒマラヤ山脈、IIは日本海溝、IIIは東太平洋海嶺の一部、IVは大西洋中央海嶺の一部を示す。線上に描かれたアイスランドは海嶺が水面上にあらわれたもの。ウェゲナーは1912年に大陸移

動説を唱え、1915年に『大陸と海洋の起源』を著した。問10:北 南極点からはすべての方位が北。

7. 地誌(アフリカ)

アフリカに関する総合的な問題。資料を活用し、現代的な問題にも配慮した。

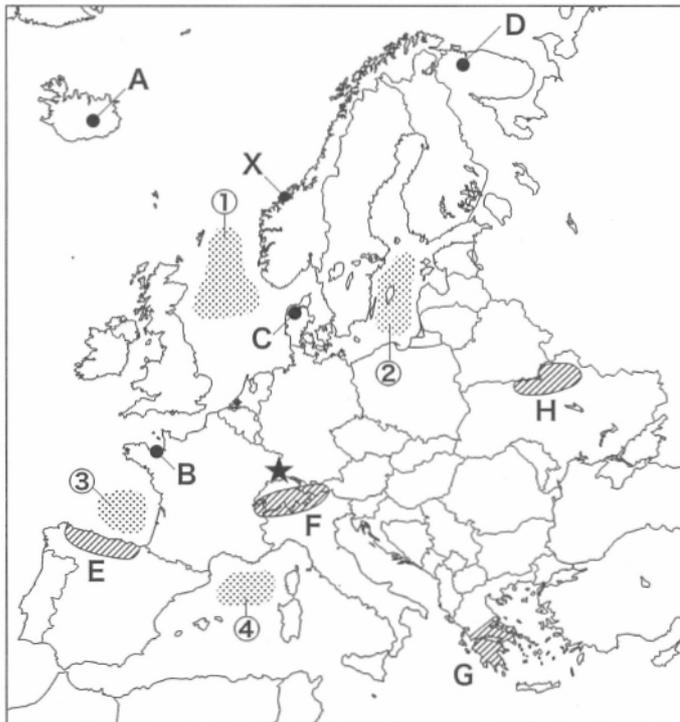
問1:③ アフリカ大陸は全体が台地状をしており、標高200m未満の割合は低い。問2:④ グラフは地中海性気候を示す。また、最寒月が7月であることから南半球であることがわかる。問3:④ アフリカではHIV感染症(エイズ)が大きな問題となっている。①ハマダラカに媒介される原虫感染症。②原虫感染症で

分布は媒介するツェツェバエの生息する赤道を中心とした地域に限られる。③コレラ菌による感染症。問4:① カカオ豆は幹に実る紡錘形の果実のなかの種子を発酵させたもの。問5:② 問6:C コンゴ民主共和国はダイヤモンドの生産で世界3位、銅の生産で14位(2008年)。銅の産出はザンビア～コンゴ民主共和国にかけて分布するカッパーベルトが有名。ダイヤモンドはおもにキンバレー岩と呼ばれる岩石中に存在し、その分布は限定的である。問7:④ ①南アメリカ原産、②オセアニア原産、③アフリカから中国に伝わる。問8:③ 油田をはじめとした資源開発やODAの供与など中国の進出が著しい。問9:② 問10:南アフリカ共和国

資料 2011（平成23）年度県下一斉テスト問題

【1】 ヨーロッパの地図を見て問いに番号で答えよ。

地図



グラフ



『世界国勢図会 2011/12年版』による

問1 グラフはある国の発電量のエネルギー源別割合を表している。この国はどれか。

- ①イギリス ②フランス ③ノルウェー ④イタリア

問2 地図中のA～Dの地域とそこで行われている特徴的な発電方法の組合せとして不適切なものはどれか。

- ①A：活発な火山活動を利用した地熱発電
 ②B：干潮時と満潮時の大きな水位差を利用した潮力発電
 ③C：安定して吹く偏西風と平坦な地形を利用した風力発電
 ④D：年間を通じた長い日照時間を利用した太陽光発電

問3 地図中の  で示された地域で現在見られる特徴的な環境問題として、もっとも適切なものはどれか。

- ①E：砂漠化 ②F：氷河の後退 ③G：熱帯林の減少 ④H：オゾンホールが発生

問4 次の文は、地図中  ①～④のどの海域について述べたものか。

「周辺各国による海底油田の開発が進んでおり、過去に原油流出などの事故もあった。採掘された原油はパイプラインにより輸送されている。」

問5 地図中 X 地点は高緯度に位置しているがその気候区は温帯に属する。その要因の組合せとして正しいのはどれか。

- ①偏西風・ラブラドル海流 ②貿易風・北大西洋海流
③偏西風・北大西洋海流 ④貿易風・ラブラドル海流

問6 ヨーロッパでは環境に配慮した都市（エコシティ）がいくつかあるが、そのひとつにドイツのフライブルク（地図中★印）がある。それに関する設問に答えよ。

〔設問1〕フライブルクでは、都心部の交通渋滞緩和や大気汚染などを解決するために、都市郊外に自家用車をとめ鉄道などで都心部へ向かう方式がとられている。これを何と言うか。

- ①モーダルシフト ②パークアンドライド ③インナーシティー ④ドライブスルー

〔設問2〕フライブルクの東側にあるシュバルツバルトに関する説明として誤っているのはどれか。

- ①年降水量が2000mmを超えるため多くの樹種が見られる。
②なだらかな山地でありドナウ川などの水源となっている。
③樹木が密集して暗く見えることから黒い森と呼ばれている。
④植林された人工林の割合が高い。

〔設問3〕フライブルクの西側を流れるライン川に関する説明として誤っているのはどれか。

- ①周辺の河川と運河で結ばれ国際河川として物流の大動脈となっている。
②生活排水や産業排水などで水質の汚染が問題となっている。
③中下流域にはヨーロッパ有数の都市や工業地帯が見られる。
④季節的な流量の変化が非常に大きい。

問7 ヨーロッパでは酸性雨が問題化しているところもある。酸性雨に関する説明として誤っているのはどれか。

- ①風の影響により国境を越えて被害が拡散している。
②湖沼や河川の酸性度が高まり魚類が減少している。
③北半球よりも南半球で多くの被害が見られる。
④歴史的な建造物や文化財が溶けるなどの被害が見られる。

問8 表は地球温暖化の原因物質である二酸化炭素の排出量の推移を国別に示したものである。ドイツに該当するものはどれか。ただし他は、アメリカ合衆国、中国、インドである。

表

	1990年	2008年
①	4869	5596
②	2244	6551
③	950	804
④	591	1428

単位：百万 t
『世界国勢図会 2011/12年版』による

【2】 次の東南アジアに関する文を読み、問いに記号で答えよ。(ただし、問3の〔設問2〕は適語を記せ。)

東南アジアはインドシナ半島やマレー半島の大陸部と、a 赤道をはさんで広がる b 多くの島々からなる。気候的にはそのほとんどが熱帯気候に属しており、c 熱帯特有の農産物を生産している。また古くから中国とインドを結びつける海上交易の要地だったことから d いろいろな宗教や文化が入り込んでいる。さらに植民地としての歴史が長かったことから e 旧宗主国の文化を残している国もある。

問1 下線部 a は地図中ア～エのどれか。

問2 下線部 b に関し、地図中オ～クの名称として正しいのはどれか。

- ①オ：ルソン島 ②カ：スマトラ島
③キ：ジャワ島 ④ク：カリマンタン島

問3 下線部 c に関し、東南アジアの農業について設問に答えよ。

〔設問1〕プランテーション農業を行っている国とその国の代表的作物の組合せで誤っているのはどれか。

- ①マレーシア：カカオ ②タイ：天然ゴム
③ベトナム：コーヒー ④フィリピン：バナナ

〔設問2〕1960年代以降、稲などの高収量品種が開発され、普及した。その結果、東南アジアや南アジアで食料自給が可能になった。この農業技術の革新を何と呼ぶか。

問4 下線部 d に関し、東南アジアでは国民の多くが信仰している宗教が国によって異なる場合がある。次の国のうち国民の多数が信仰する宗教が他の三つと異なる国はどれか。

- ①ミャンマー ②カンボジア ③タイ ④インドネシア

問5 下線部 e に関し、現在の国と旧宗主国との組合せで正しいのはどれか。

- ①シンガポール：スペイン ②インドネシア：オランダ
③マレーシア：フランス ④ラオス：イギリス

問6 マレーシアでは華人との経済格差を解消するために、マレー人を優遇する制度があるが、それは何か。 ①ルックイースト政策 ②ドイ・モイ ③プミプトラ政策 ④セマウル運動

問7 東南アジア10か国は域内の経済的成長や文化的発展、諸問題の解決などを目的に設立された国際組織に加盟している。その組織とはどれか。

- ①APEC ②WTO ③IMF ④ASEAN

問8 東南アジアと日本とは貿易面での結びつきが強い。このことに関する設問に答えよ。ただし、数字は『データブック オブ・ザ・ワールド 2011』によるものである。

〔設問1〕表1は日本のある輸入品の国別輸入額の割合を示している。この輸入品は何か。

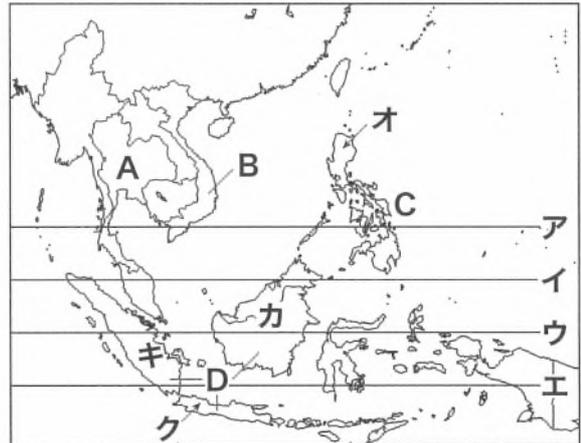
ベトナム	19.7	インドネシア	18.0	タイ	13.1	インド	10.7	中国	5.8
------	------	--------	------	----	------	-----	------	----	-----

- ①ヤシ油 ②木材 ③液化天然ガス ④えび

〔設問2〕表2は地図中A～Dのいずれかの国の日本への輸出品目と金額による割合を示している。どの国のものか、A～Dの記号で答えよ。

液化天然ガス	23.1	石炭	14.5	銅 鋳	9.7	原油	6.5	電気機器	5.3
--------	------	----	------	-----	-----	----	-----	------	-----

地図



【3】新旧の地形図を見て問いに記号で答えよ。(ただし、問1・問9は適語を記せ。)

問1 地形図ⅠのA付近では河川はどの方向へ流れているか。8方位で答えよ。

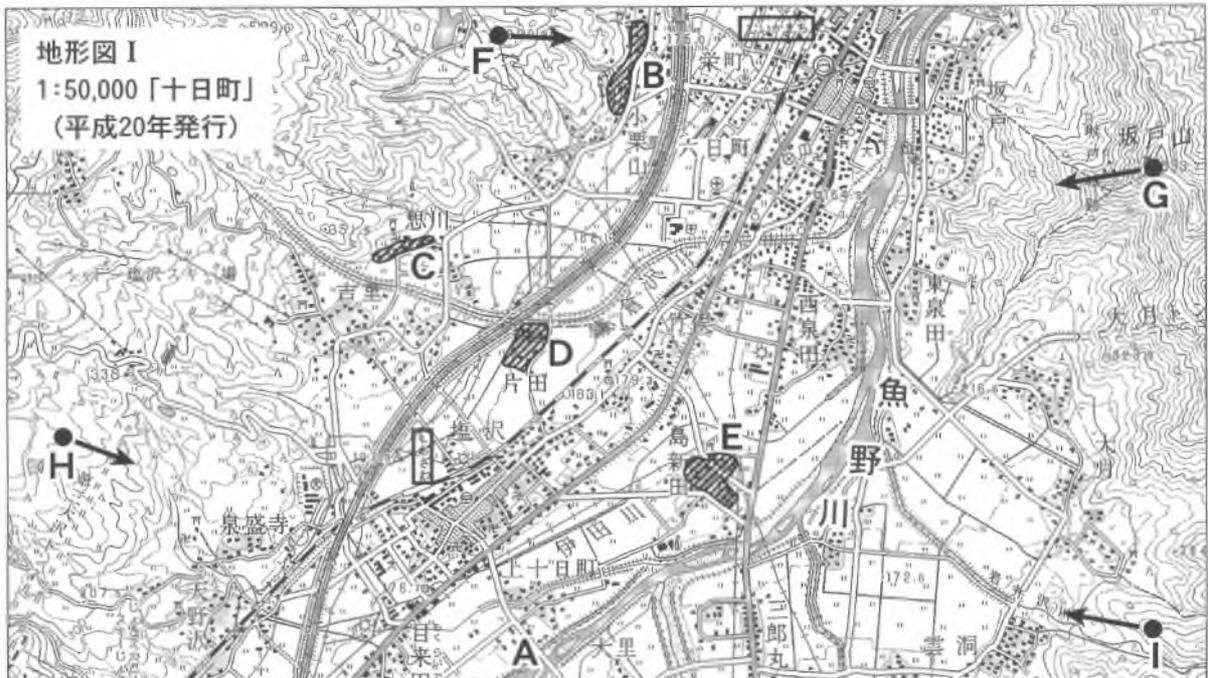
問2 地形図Ⅰの集落B～Eのうち、もっとも標高が高い場所に位置するのはどれか。

問3 地形図Ⅰの「むいかまち」駅と「しおざわ」駅の間の直線距離は、地図上で約7cmである。実際はおよそ何mか。 ①2000m ②2500m ③3000m ④3500m

問4 地形図Ⅱの  で示した地域の面積は地図上でほぼ1cm四方である。実際のおよその面積はどれか。 ①2,500㎡ ②10,000㎡ ③62,500㎡ ④250,000㎡

問5 地形図Ⅱにみられる集落について推察したこととして誤っているのはどれか。

- ①塩沢は扇状地の末端に位置し、湧水が得られるので「沢」という地名がついたのだろう。
- ②大里は後背湿地上にある集落で、周辺には条里制がしかれていたのであろう。
- ③竹ノ俣新田は竹ノ俣の子村として江戸時代以降に生まれたのであろう。
- ④六日町は定期的に市が立つ集落から発展したのであろう。



問6 地形図ⅠのF～Iから矢印方向に見える景観を述べた文として、正しいのはどれか。

- ①F：市街地の向こう側に川が流れており、その対岸の斜面は果樹園になっている。
- ②G：高速道路の向こう側の斜面にはスキー場がみられる。
- ③H：高速道路の上を鉄道が通っているのがわかる。
- ④I：市街地と川にはさまれてJRの駅が見られる。

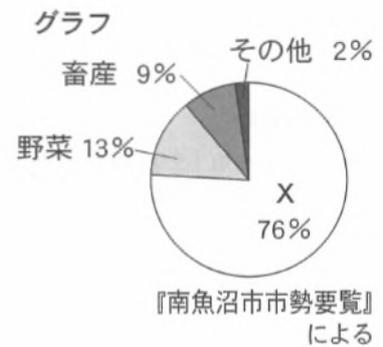
問7 地形図ⅡのJ-Kのおよその断面図としてもっとも適当なのはどれか。

- ① 
- ② 
- ③ 
- ④ 

問8 地形図Ⅰで塩沢の市街地の南から線路にほぼ平行して六日町の市街を通る国道周辺に見られない地図記号はどれか。

- ①老人ホーム ②図書館 ③警察署 ④市役所

問9 右グラフは地形図Ⅰの地域が含まれる新潟県南魚沼市の農業出荷額の内訳である(2005年)。地形図の土地利用の記号などから判断して、Xに入る作物を答えよ。



問10 地形図Ⅰと地形図Ⅱを比較して、読み取れる内容として正しいのはどれか。

- ①魚野川の流路が大きく変化していることがわかる。
- ②魚野川の東側の斜面に新たにスキー場ができて観光客が増えたことがわかる。
- ③「しおざわ」駅の近くから町役場がなくなったことがわかる。
- ④高速道路が建設されたため周辺に大きな工場が多数進出しているのがわかる。

【4】 次の文は東アジアから日本へ留学にきている学生たちの会話である。文を読み、問いに記号で答えよ。ただし、A～Dさんが同じ国の出身とは限らない。

Aさん「私が住んでいた地域はこここのところ経済がとても発展していて、父親はこの30年くらいで生活様式がずいぶん変わったと言っているよ。去年は万博も開かれたんだ。」

Bさん「私が住んでいた地域はシルクロードが通っていたことで有名なんだ。乾燥していて環境は厳しいけれど、[ア]が採れるせいか、すごく発展してきているよ。私たちはこの国では少数民族で自治区を持っているけれど、a 私たちとは違う民族が多く移り住んできているんだ。」

Cさん「私の民族も日本でよく知られるようになってきたよ。特に日本の国技と言われている大相撲で活躍している人が多いからね。最近は多くの人々が都市で暮らすようになったけれど、私の祖父は首都から少し離れたところで b 伝統的な暮らしを守っているよ。」

Dさん「私たちの民族は以前に日本から植民地支配を受けていたので、日本に対してはとても複雑な感情を持っているよ。でも若い世代には日本の文化を積極的に受け入れようとしている人たちも大勢いるし、私の国の芸能人も日本で大勢が活躍しているよ。」

問1 1970年代の後半に始まったある政策のために、Aさんの出身地域では近年、いろいろなことが起きているといわれている。その起きていることとして誤っているのはどれか。

- ①地域の高齢化が急速に進んでいる。 ②受験競争が厳しくなっている。
- ③子供がわがままになってきている。 ④子供が多くて学校が足りなくなっている。

問2 Bさんの出身地域で、Bさんを含めた少数民族のあいだで主に信仰されている宗教は何か。

- ①キリスト教 ②イスラム教 ③チベット仏教 ④ヒンドゥー教

問3 Bさんの出身地域の生活を豊かにしている地下資源 [ア] とは何か。

- ①石油 ②石炭 ③銅鉱石 ④鉄鉱石

問4 下線部 a に関し、この国では多数派の民族で、Bさんの出身地域に移り住んできている民族はどれか。

- ①チベット族 ②チョワン族 ③漢族 ④朝鮮族

問5 下線部 b に関し、Cさんの祖父は右の図のような伝統的な住居に暮らしている。どのような生活を営んでいるのか。

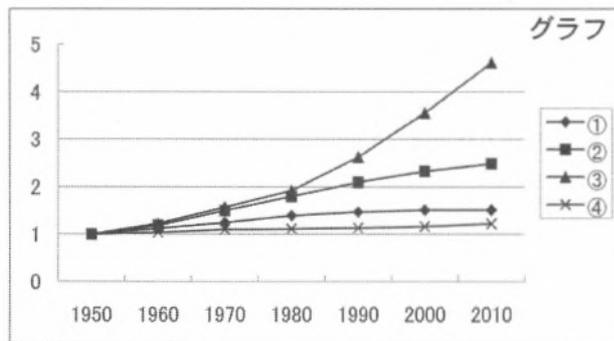
- ①森の中を移動しながら狩りや木の実を採集して暮らしている。
 ②森林を焼き払って農業を行い、数年で場所を移動している。
 ③羊やヤギなどを飼い、季節によって草を求めて家ごと移動している。



- ④踊りや音楽の演奏をする旅芸人のほか、占い師などとして移動しながら暮らしている。

問6 次の文はA～Dさんの民族について書かれている。誰のものか、A～Dの記号で答えよ。

「以前は漢字文化だったが、近年はほとんどハングルが使われている。儒教の精神が根付いており、年長者はとても敬われている。また近代的な住宅でも伝統的な床暖房方式を使用していることが多い。」

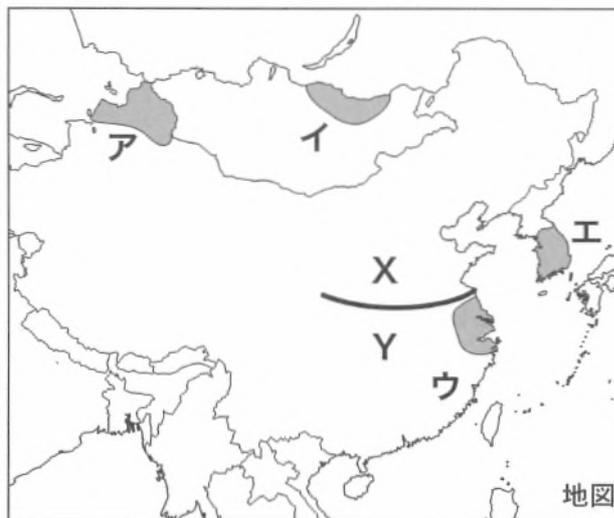


『データブック オブ・ザ・ワールド 2011』による

問7 左のグラフは1950年当時のその国の人口を1としたとき、2010年までの増加の割合を示している。中国を表したグラフは①～④のどれか。ただし、他の3か国は日本、エチオピア、イギリスである。

問8 Cさんの出身地域は左の地図中のア～エのどの地域か。

問9 Dさんの出身地域で主に食べられている料理について書かれた文でもっとも適切なのはどれか。



- ①魚介類を使った料理が多く、近年はカニ料理が日本でもとても人気がある。
 ②ヤギ肉や羊肉を焼いた料理が有名で、その際の食材は宗教上の決まりごとにより処理されている。
 ③白菜などの野菜を大量の唐辛子と魚介類などと一緒に漬け込む漬物が有名で、冬の風物詩となっている。
 ④羊肉を煮込んだものや、乳製品をふんだんに使ったものをいつも食べている。

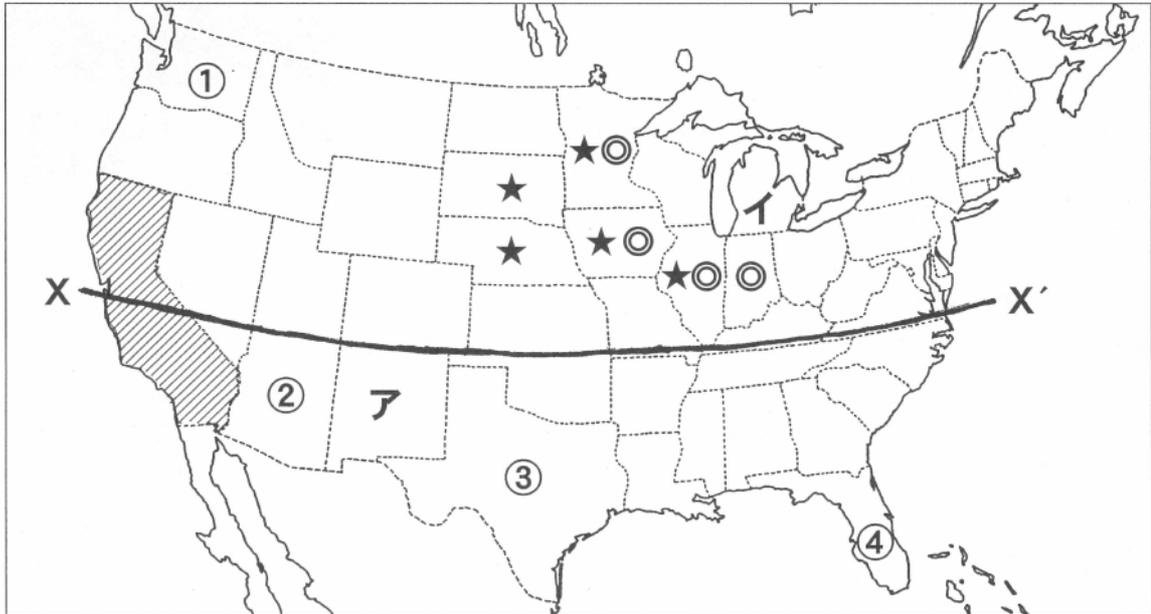
問10 地図中にある線で中国の東部はXとYとの地域に大まかに分けることができる。それぞれの特徴の組合せとして適切なのはどれか。

- ①Xの地域：雨が少なく畑作農業が中心である。 Yの地域：雨が多く稲作農業が中心である。
 ②Xの地域：住民はキリスト教徒が多い。 Yの地域：住民は仏教徒が多い。
 ③Xの地域：近代的な鉄筋住宅が多い。 Yの地域：伝統的な石造りの住宅が多い。
 ④Xの地域：現在でも伝統的な産業に頼っている。 Yの地域：急速な工業化が進んでいる。

【5】 アメリカ合衆国は50の州からなる。自然環境や文化もさまざまなこれらの州の統計をみると、国内の地域差がうかび上がってくる。アメリカ合衆国の産業に関し、問いに番号で答えよ。(ただし、問1の設問1は適語を記せ。統計数値は『データブック オブ・ザ・ワールド 2011』による。)

問1 地図を見て、設問に答えよ。

地図



〔設問1〕 地図中  で示された州は、2009年における人口や農業生産額が国内でもっとも多い。この州の名称を答えよ。

〔設問2〕 地図中アで示された州の住民について、他の州と比較して割合が高いのはどれか。

- ①先住民とアジア系住民 ②アジア系住民とアフリカ系住民
- ③アフリカ系住民とヒスパニック ④ヒスパニックと先住民

〔設問3〕 アメリカ合衆国では地図中X-X'の緯線より南の、サンベルトとよばれる地域が急速な経済成長をとげている。X-X'の緯度はどれか。

- ①北緯31度 ②北緯37度 ③北緯43度 ④北緯49度

〔設問4〕 先端技術産業が集積している地域のうち、シリコンプレーンとよばれるところがある州を地図中の①～④よりえらべ。

〔設問5〕 地図中イで示された州の工業の特色の説明文として適切なものはどれか。

- ①河川の勾配の変化を利用した水力発電により、綿織物工業や製粉業などがさかんである。
- ②農産物の大産地を背景にした食品工業、特に畜産加工などの軽工業が中心となっている。
- ③水運により、鉄鉱石の産地などと結ばれて産業が集積し、自動車工業の一大拠点を形成している。
- ④石油化学工業や航空宇宙産業をはじめ、各種先端産業が発達している。

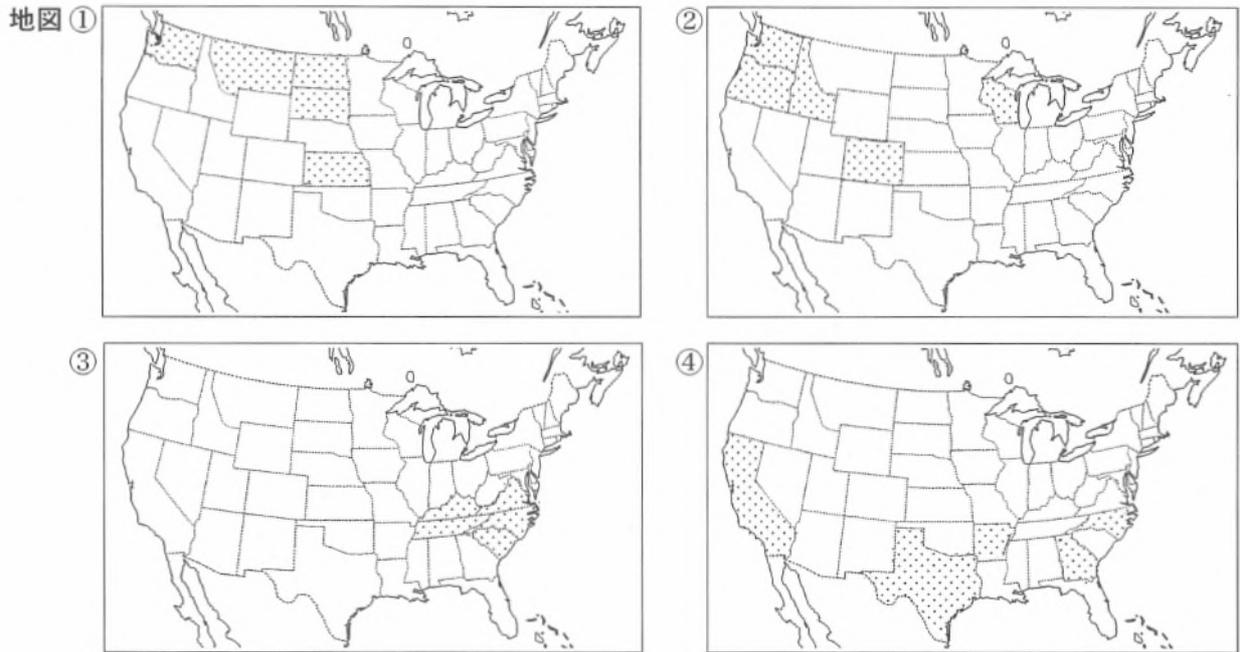
〔設問6〕 地図中★で示された州は、近年注目されてきたエネルギー資源の2010年における生産量が多い上位5州をあらわしている。このエネルギー資源はどれか。

- ①オイルサンド ②バイオエタノール ③マンガン団塊 ④メタンハイドレート

〔設問7〕 地図中◎で示された4州すべてが、2009年におけるアメリカ合衆国の州別統計で、上位5位に入る農畜産物の組合せはどれか。

- ①牛の飼育頭数・豚の飼育頭数・とうもろこしの生産量
- ②牛の飼育頭数・豚の飼育頭数・大豆の生産量
- ③牛の飼育頭数・とうもろこしの生産量・大豆の生産量
- ④豚の飼育頭数・とうもろこしの生産量・大豆の生産量

問2 次の地図①～④は2009年における小麦・ばれいしょ・たばこ・綿花それぞれの州別生産量で、上位5位の州をあらわしたものである。このうち綿花をあらわしているのはどれか。



問3 アメリカ合衆国の農業は、大きな資本力をもった企業による影響力を強く受けている。こうした大企業を含む農業関連産業を何というか。

- ①アグリビジネス ②センターピポット ③タウンシップ ④フィードロット

問4 右の表は、2008年におけるアメリカ合衆国の輸出相手国の上位5か国と、全輸出額に対する割合をあらわしたものである。空欄(ア)・(イ)に入る組合せとして正しいものはどれか。

表

国名	%
(ア)	20.1
(イ)	11.7
中国	5.5
日本	5.1
ドイツ	4.2

- ①(ア)：カナダ，(イ)：メキシコ ②(ア)：ブラジル，(イ)：カナダ
 ③(ア)：ベネズエラ，(イ)：ブラジル ④(ア)：メキシコ，(イ)：ベネズエラ

【6】『ビーグル号航海記』を読み感銘を受けたケンジさんは、進化論で知られる著者ダーウィンの世界周航について調べた。次ページの地図をみて、問いに記号で答えよ。(ただし、問10は適語を記せ。)

問1 地図中Aの地域には、ビーグル号にちなんで名付けられたビーグル海峡(水道)があり、付近には氷河によってつくられたフィヨルドがみられる。地図中ア～エのうち、フィヨルドがみられない地域はどこか。

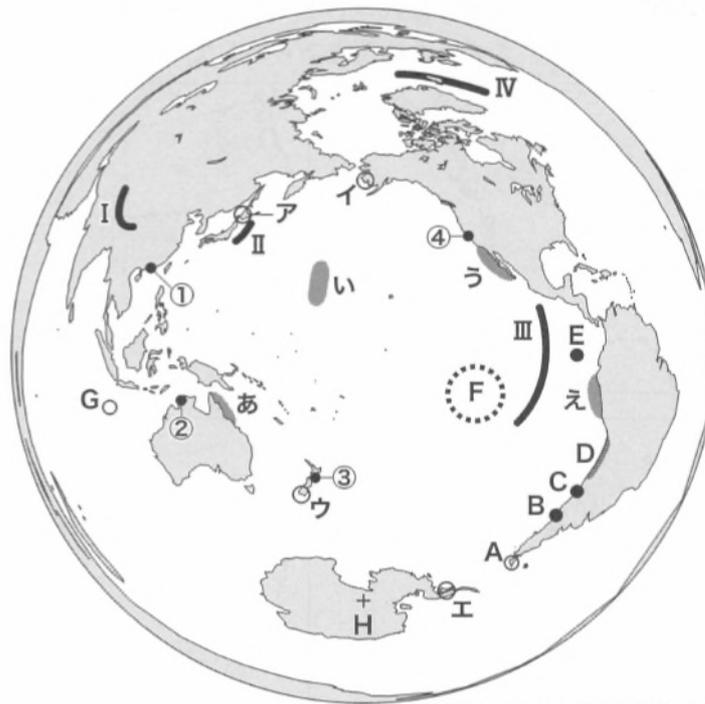
問2 地図中Bの都市バルディビアで、ダーウィンは1835年2月に大地震に遭遇し、後日、付近の都市で地震と津波の被害を見聞した。地震や津波に関連した文で不適切なものはどれか。

- ①ダーウィンの母国イギリスでは大地震がたびたび発生する。
 ②一般にリアス海岸のような湾の奥では津波が大きくなりやすい。
 ③チリ沿岸地域を震源とする地震による津波の被害が日本で発生したことがある。
 ④一般に地震の多い地域では火山活動も活発である。

問3 ダーウィンは地図中Cの都市バルパライソに上陸しアンデス山脈を横断した。アンデス山脈について述べた文としてもっとも適切なものはどれか。

- ①古期造山帯の山脈で、石炭の産出で知られる。 ②古期造山帯の山脈で、銅の産出で知られる。
 ③新期造山帯の山脈で、石炭の産出で知られる。 ④新期造山帯の山脈で、銅の産出で知られる。

地図



(ランベルト正積方位図法 中心：0°，165°W)

問4 ダーウィンは地図中Cの都市周辺でオレンジやオリーブの畑をみた。これらの作物の栽培に適した、C付近と同じ気候区に属する都市を、地図中の①～④から選べ。

問5 地図中Dの地域にはアタカマ砂漠が広がっている。この砂漠は、沖合の海流の影響を強く受けて形成された。この海流の名称と性質の正しい組合せはどれか。

- ①ペルー（フンボルト）海流・暖流 ②ペルー（フンボルト）海流・寒流
- ③カリフォルニア海流・暖流 ④カリフォルニア海流・寒流

問6 地図中Eの島々は、独特の動物からダーウィンが進化論の着想を得たといわれ、ユネスコの世界自然遺産に登録されているガラパゴス諸島である。これに関し、「東洋のガラパゴス」と呼ばれ2011年に世界自然遺産に登録されたのはどこか。

- ①西表島 ②小笠原諸島 ③千島列島 ④屋久島

問7 ビーグル号は帆船であったため、航海には風が欠かせなかった。地図中F付近に吹く恒常風の名称とその風向の組合せとしてもっとも適切なものはどれか。

- ①偏西風・北西 ②偏西風・南西 ③貿易風・北東 ④貿易風・南東

問8 地図中G付近にはサンゴ礁がみられる。ダーウィンはここで、島の沈降にしたがい、サンゴ礁が裾礁から堡礁、環礁へと発展すると発想した。地図中あ～えのうち、世界最大のサンゴ礁がみられる地域はどこか。

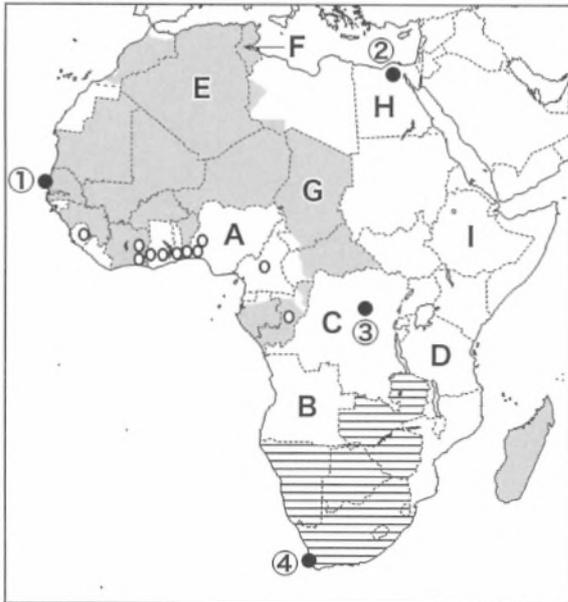
問9 ダーウィンの『種の起源』刊行の約半世紀後、ウェゲナーは『大陸と海洋の起源』を刊行し「大陸移動説」を唱えたが、当時は受け入れられなかった。しかし、1960年代になると大陸移動を含む地表の地学的現象を合理的に説明するプレートテクトニクス理論が提唱された。これに関し、プレート境界の一部を示した地図中I～IVの各地域について述べた文で不適切なものはどれか。

- ①I：大陸のプレートどうしがぶつかり合い、大山脈が形成されている。
- ②II：大陸のプレートの下に海洋のプレートが沈み込み、海溝が形成されている。
- ③III：海底のプレートが生成されて両側に拡大し、海嶺が形成されている。
- ④IV：海底のプレートどうしがぶつかり合い、横ずれ断層が形成されている。

問10 地図中の+Hは南極点を示す。ここからみた、地図中の地点Gの方位を8方位で答えよ。

【7】 次のアフリカの地図をみて、問いに記号で答えよ。(ただし、問10は適語を記せ。)

地図



表

(単位：%)

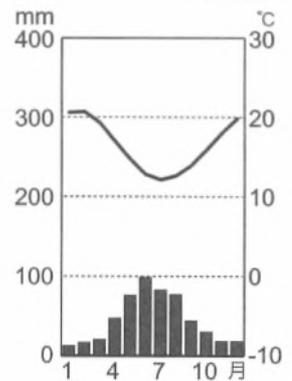
高度\大陸	①	②	③	北アメリカ	④	オーストラリア
200m未満	24.6	52.7	9.7	29.9	38.2	39.3
200～500m	20.2	21.2	38.9	30.7	29.8	41.6
500～1000m	25.9	15.2	28.2	12.0	19.2	16.9
1000～2000m	18.0	5.0	19.5	16.6	5.6	2.2
2000～3000m	5.2	2.0	2.7	9.1	2.2	0.0
3000～4000m	2.0	0.0	1.0	1.7	2.8	0.0
4000m以上	5.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0

『データブック オブ・ザ・ワールド 2011』による

問1 上の表は、大陸の高度別面積割合を示したものである。アフリカは①～④のどれか。ただし、他はアジア・ヨーロッパ・南アメリカである。

問2 右の雨温図は、地図中の地点①～④のいずれのものか。

雨温図



『理科年表』による

写真



問3 地図中  で示される国々は、あるウイルスの感染割合(15～49歳、2007年)が15%以上の国である。そのウイルスによるものとはどれか。

①マラリア ②睡眠病 ③コレラ ④H I V感染症

問4 右の写真で示される、主に地図中  の地域で栽培されている作物はどれか。

①カカオ ②コーヒー ③アブラヤシ ④ココヤシ

問5 地図中  で示される地域は、かつてヨーロッパのどの国の植民地であったか。

①イギリス ②フランス ③ベルギー ④ドイツ

問6 アフリカ有数の鉱物資源産出国で、ダイヤモンドや銅の生産量では世界の上位にある国は、地図中A～Dのどれか。

問7 輸出用の商品作物生産が多いアフリカ諸国で、自給用の主食作物として栽培され、 餅のようにこねたりして食べる熱帯アメリカ原産の作物はどれか。

①ジャガイモ ②タロイモ ③コウリヤン ④キャッサバ

問8 資源獲得などのため、近年アフリカで影響力を強めている国家としてもっとも適切なものはどれか。

①韓国 ②フランス ③中国 ④インド

問9 地図中E～Iの国のうち、2011年1月以降、長期独裁体制に反対する勢力によって政権が打倒された国の組合せとしてもっとも適するものはどれか。

①E・F ②F・H ③E・G ④H・I

問10 次のあるアフリカの国に関する説明を読み、その国名を答えよ。

「この国は1910年に独立したが、1948年オランダ系アフリカーナの政党が政権を握った後、アパルトヘイトを法制化、白人優遇政策を推進した。1990年にアフリカ民族会議のマンデラ議長釈放後、1991年に全差別法は撤廃された。レアメタルなど鉱産資源に恵まれ、アフリカ有数の工業国である。」

編集委員（企画委員会）

岩佐賢史(神大附) 岩崎浩実(希望ヶ丘)
石見明子(横浜国際) 中島 功(七里ガ浜)
小嶋太郎(大磯) 根元一幸(座間)
齊藤 正(麻生総合) 福元雄二郎(神大附)
岸野かしこ(神大附) 村木 憲(横浜)

2012年3月7日発行

編集発行 神奈川県高等学校教科研究会
社 会 科 部 会
地 理 分 科 会

発行者 吉 村 憲 二
〒247-0013
横浜市栄区上郷町555
県立横浜栄高等学校
電話 045-891-5736

印刷所 (株) 中 島 印 刷 所
横浜市南区二葉町4-39
電話 045-251-0064~6